



2017年度
榎野川河口干潟自然再生
報告書



目次

I	榎野川河口干潟・山口湾	
1	活動の成果	2
(1)	干潟等の親水性の向上	
(2)	干潟等の活動の実績	
(3)	広報・普及啓発等に関する活動	
(4)	干潟等に生息する生き物	
(5)	活動の受賞歴	
2	活動の概要	4
(1)	活動一覧	
(2)	活動年表	
3	干潟再生活動	7
(1)	榎野川河口干潟再生活動2017	
(2)	アサリ再生活動	
(3)	関係情報	
4	環境学習	18
(1)	あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟	
(2)	干潟の生き物観察会(南潟)	
(3)	カブトガニ観察会(長浜)	
(4)	カブトガニ観察会(岩屋)	
(5)	野鳥の教室	
(6)	山口県立きらら浜自然観察公園	
5	学術研究・調査	23
(1)	学術研究・調査の概要	
(2)	カブトガニ幼生生息調査	
(3)	カブトガニ産卵調査	
(4)	野鳥モニタリング調査	
(5)	アマモ場	
(6)	カイガラアマノリ	
II	榎野川流域	
1	上流域における活動	36
(1)	榎野川源流の碑	
(2)	四季の森の森林整備	
(3)	里山の迎春交流会(森林体験イベント)	
(4)	あゆの放流行事	
2	中流域～河口域における活動	38
(1)	榎野川水系クリーンキャンペーン	
(2)	水辺の教室@ふしの川漁協まつり	
(3)	あゆ産卵場造成	
(4)	ナルトビエイ駆除	
III	広報・普及啓発	
1	広報活動等	39
(1)	学術研究の学会発表・活動の講演	
(2)	ふしの干潟ファンクラブ	
(3)	広報用リーフレット	
(4)	ニュースレター	
(5)	関連ウェブサイト等	
IV	榎野川河口域・干潟自然再生協議会	
1	会議	41
(1)	協議会会議	
(2)	自然再生協議会全国会議	
2	構成員	42

1 活動の成果

(1) 干潟等の親水性の向上

多くの個人・団体が、干潟等の自然再生活動等に参加し、自然に親しみました。

内容	数値	備考
●活動に参加した総人数	827 人	同一人物を含む
●榎野川河口干潟再生活動2017(イベント)		
参加人数	430 人	+160人(前年度比)
潮干狩りに参加した人数	150 人	
学生ボランティアの人数	94 人	+42人(前年度比)
企業ボランティアの人数	78 人	+10人(前年度比)
●環境学習を受けた子どもの総人数	150 人	生き物観察会、あさり姫プロジェクト、カプトガニ観察会、野鳥の教室
●活動に関わった大学・学校の数	3 校	山口大学、水産大学校、山口県立大学
●活動に関わった企業の数	6 社	山口トヨタ、ネットトヨタ山口、トヨタカローラ山口、山口トヨペット、伊藤園山口支店、積水ハウス山口工場
●きらら浜自然観察公園の入館者数	11679 人	ビジターセンターの利用者

(2) 干潟等の活動の実績

豊かな干潟等の再生を目指し、様々な活動が実施されました。

内容	数値	備考
●干潟の耕耘面積	6,000 m ²	
●被覆網の総設置枚数	160 枚	+83枚(前年度末比)
●被覆網の総設置面積	1,658 m ²	+503m ² (前年度末比)
●二枚貝モニタリング調査の地点数(南潟)	13 地点	四半期調査
●環境学習会の回数	5 回	生き物観察会、あさり姫プロジェクト、カプトガニ観察会、野鳥の教室

(3) 広報・普及啓発等に関する活動

干潟等の価値を多くの方に知っていただき、活動に共感する方を増やすための取組を進めています。

内容	数値	備考
●活動等の取材件数	8 回	山口新聞、中国新聞、宇部日報、KRY山口放送、TYSテレビ山口、YAB山口朝日放送、NHK山口放送局
●学会発表・学術雑誌掲載・講演等の件数	27 件	
●ふしの干潟いきもの募金の額	—	
●ふしの干潟ファンクラブ会員数	12 名	

1 活動の成果

(4) 干潟等に生息する生き物

干潟等に生息する生き物を調査することで、環境の状況の把握、活動の評価を行い、必要な取組を検討しています。

内容	数値	備考
●アサリ漁獲・間引き量	243 kg	
●カブトガニ		
幼生の発見個体数(長浜+南潟)	913 個体	2017年8月20日調査
幼生の推定個体密度(長浜)	160 個体/ha	2017年8月20日調査
幼生の推定個体密度(南潟)	259 個体/ha	2017年9月8日調査
産卵調査のつがい数(山口湾)	1,122 つがい	36回の調査の合計
●野鳥(山口湾)		
飛来種数の累計	236 種	2001年4月～2018年3月
クロツラヘラサギの最大飛来数	31 羽	数日間の調査のうち、最も多く確認された日の飛来数
ズグロカモメの最大飛来数	110 羽	
チュウシャクシギの最大飛来数	456 羽	
ハマシギの最大飛来数	444 羽	
ダイゼンの最大飛来数	20 羽	

1 活動の成果

(5) 活動の受賞歴

● 生物多様性アクション大賞2017

- ・カプトガニWGの活動が、国連生物多様性の10年日本委員会の「生物多様性アクション大賞2017(まもろう部門)」に入賞した。県内の活動で初の入賞。
- ・活動内容は、いきものぐらしホームページ(<http://5actions.jp/consERVE/fushino/>)に掲載されている。
- ・全116件の応募から、環境大臣賞1件、農林水産大臣賞1件、優秀賞3件、特別賞4件、審査委員賞6件、入賞38件。



● 過去の受賞歴

受賞年月	受賞内容	受賞団体
H12	山口県環境保全活動功労者等知事表彰	榎野川漁業協同組合
H17. 4	みどりの日自然環境功労賞(環境保全活動部門) 環境大臣表彰	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
H17	山口県瀬戸内海環境保全協会会長表彰	榎野川流域連携促進協議会
H18. 1	手づくり郷土賞・国土交通大臣表彰	榎野川の源流を守る会
H22. 6	第30回豊かな海づくり大会・環境大臣特別賞(漁場・環境保全部門)	榎野川流域活性化交流会
H22. 8	水資源功績者表彰(国土交通省)	榎野川の源流を守る会
H25	県民活動きらめき賞(公益財団法人山口きらめき財団)	山口カプトガニ研究懇話会
H25. 12	第5回プロジェクト未来遺産登録(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟)	榎野川流域連携促進協議会
H29. 12	生物多様性アクション大賞2017入賞(国連生物多様性の10年日本委員会)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会(カプトガニWG)

I 榎野川河口干潟・山口湾

2 活動の概要

(1) 活動一覧

干潟等では、年間を通じて、様々な自然再生活動、環境学習活動、学術研究等が行われています。

活動一覧		
分類	内容	実施主体
干潟再生活動・環境学習活動	干潟耕耘・生き物観察会・あさり潮干狩り	榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
	アサリ再生活動(被覆網、母貝団地の設置等)	干潟・水産資源再生WG
	あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟	環境学習WG、(竹林ボランティア山口)
	カブトガニ観察会(長浜・岩屋)	カブトガニWG、山口カブトガニ研究懇話会
	野鳥観察会(土路石川周辺)	NPO法人野鳥やまぐち(きらら浜自然観察公園)
	野鳥の教室(きらら浜自然観察公園)	山口市環境政策課
学術研究・調査	二枚貝モニタリング	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
	土砂環境モニタリングの取組、ドローンの活用による地盤高調査等	山口大学 大学院創成科学研究科 白水助教、山本准教授
	環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築	山口大学 大学院創成科学研究科 後藤専門研究員
	貝類間の捕食-被食関係に関する生態学的研究	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 須田教授、南條助教、安田氏
	山口湾の干潟域におけるクロダイ <i>Acanthopagrus schlegelii</i> の出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 重田主任研究員
	山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員
	被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	恵本委員(山口県環境保健センター)、干潟・水産資源再生WG
	カブトガニ幼生生息調査(長浜・南潟)	カブトガニWG
	カブトガニ幼生生息調査(土路石川等) カブトガニ産卵調査(山口湾)	山口カブトガニ研究懇話会
	野鳥モニタリング	NPO法人野鳥やまぐち
活動参加者等へのアンケート調査	持続可能な里海づくりWG	
広報・啓発活動	榎野川の恵みのレシピ作成(リーフレット)	持続可能な里海づくりWG、(山口県立大学やまぐち食べちやる隊)
	ニュースレター	山口県自然保護課
	ホームページ、Facebook	山口市環境政策課、山口県自然保護課
	学会発表・講演等	各委員
持続的な活動のための仕組みづくり	地域循環共生圏構築検討業務(2016~2018)	榎野川河口域・干潟自然再生協議会
	ふしの干潟いきもの募金	
	ふしの干潟ファンクラブ	

I 榎野川河口干潟・山口湾

2 活動の概要

(2) 活動年表

活動年表						
時期	場所	分類	内容	人数	実施主体等	
4月	12日	干潟(南潟)	☆	二枚貝モニタリング調査	21	県環境保健センター、干潟・水産資源WG
	28日	〃	○	榎野川河口干潟再生活動2017の準備	10	県漁協吉佐支店山口支所、委員
	29日	〃	○	榎野川河口干潟再生活動2017	430	榎野川流域連携促進協議会、県漁協吉佐支所山口支店
	29日	きらら浜自然観察公園	○	きらら浜自然観察公園春まつり	362	きらら浜自然観察公園(野鳥やまぐち)
5月	12日	干潟(南潟)	☆	被覆網メンテナンス等	7	委員等
	15日	〃	☆	調査研究	4	県環境保健センター
6月	10日	干潟(南潟)	☆	調査研究	6	山口大学
	26日	〃	☆	調査研究	8	水産大学校、干潟・水産資源WG
7月	11日	干潟(南潟)	☆	調査研究	7	水産大学校、干潟・水産資源WG
	13日	山口湾	☆	カブトガニ産卵状況予備調査	2	カブトガニWG
	22日	きらら浜自然観察公園、干潟(南潟)	○	あさり姫プロジェクト2017	50	環境学習WG、(竹林ボランティア山口)
	26日	きらら浜自然観察公園	☆	あさり姫プロジェクト試験	3	環境学習WG
	河口域	☆	ナルトビエイ駆除(～10月)		榎野川干潟を守る会	
8月	4日	山口湾	☆	カブトガニ産卵状況予備調査	2	カブトガニWG
	6日	干潟(岩屋)	○	カブトガニ幼生観察会	40	山口カブトガニ研究懇話会
	20日	干潟(長浜)	☆	カブトガニ幼生生息調査	43	カブトガニWG
	20日	〃	○	カブトガニ観察会	54	カブトガニWG、県環境保健センター
	20日	干潟(南潟)	☆	調査研究	2	山口大学
	23日	〃	☆	調査研究、二枚貝モニタリング調査	8	水産大学校、干潟・水産資源WG、県環境保健センター
	24日	〃	☆	調査研究、二枚貝モニタリング調査	29	WG、県環境保健センター
9月	6日	干潟(中潟)	☆	調査研究	7	瀬戸内海区水産研究所、干潟・水産資源WG
	8日	干潟(南潟)	☆	カブトガニ幼生生息調査	8	カブトガニWG、県環境保健センター
	8日	〃	☆	調査研究	4	山口大学
	20日	〃	☆	あさり姫プロジェクト調査、調査研究	10	環境学習WG、瀬戸内海区水産研究所、干潟・水産資源WG
10月	17日	きらら浜自然観察公園	☆	あさり姫プロジェクト調査	4	環境学習WG
	29日	〃	○	きらら浜自然観察公園ふれあいまつり		きらら浜自然観察公園
11月	5日	秋穂二島	○	ふたじま祭		秋穂二島地区連合自治会
	6日	大野前潟	☆	アサリ漁場の視察	8	干潟WG
	7日	干潟(南潟)	☆	調査研究	2	山口大学、干潟・水産資源WG
	16日	〃	☆	調査研究	7	水産大学校、干潟・水産資源WG
12月	3日	きらら浜自然観察公園	○	野鳥の教室	19	市環境政策課
	4日	干潟(南潟)	☆	二枚貝モニタリング調査	10	県環境保健センター、干潟・水産資源WG
1月	30日	干潟(南潟)	☆	生物モニタリング		県環境保健センター、干潟・水産資源WG
2月	14日	干潟(南潟)	☆	二枚貝モニタリング調査	7	県環境保健センター、干潟・水産資源WG
	15日	〃	☆	調査研究	11	水産大学校、干潟WG
3月	3日	きらら浜自然観察公園	☆	ヨシ焼き		きらら浜自然観察公園ヨシ焼き協議会(野鳥やまぐち)
	16日	干潟(南潟)	☆	アサリ採捕	15	県漁協山口支店、干潟・水産資源WG
	18日	道の駅きららあじす	○	アサリ販売		県漁協山口支店
通年		山口湾	☆	野鳥モニタリング		野鳥やまぐち

☆自然再生活動・調査研究等、○イベント、▲会議等、■その他

3 干潟再生活動

(1) 榎野川河口干潟再生活動2017 -AQUA SOCIAL FES!! 2017-

● 開催概要

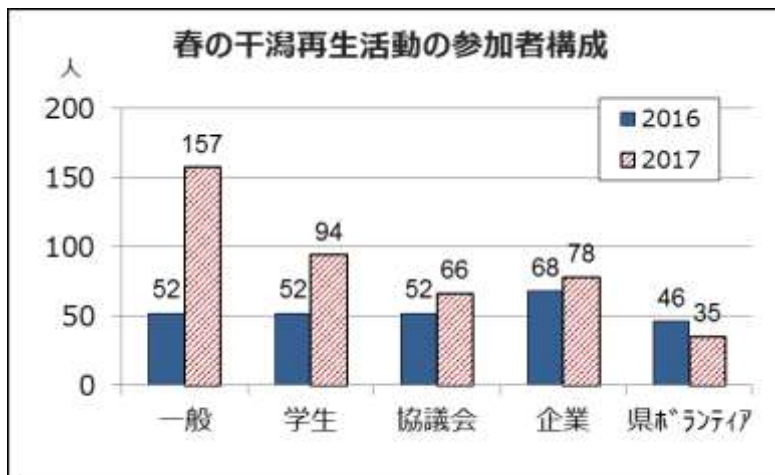
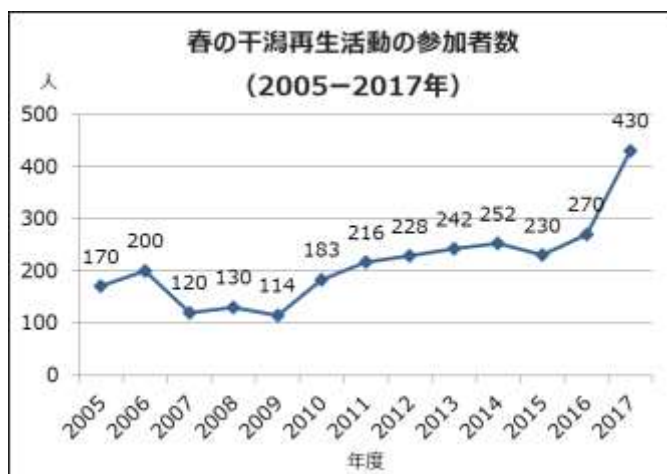
- ・開催日：2017年4月29日(土) 12:30～16:00 【晴れ、中潮、最干 16:44】
- ・主催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- ・共催：トヨタ自動車(2012年度から6年目)
- ・後援：山口新聞社

● 参加者

- ・430人(2016年の活動から160人増加し、過去最多)
- ・学生：山口大学、水産大学校、山口県立大学
- ・企業：山口トヨタ、ネッツトヨタ山口、トヨタカローラ山口、山口トヨペット、伊藤園山口支店、積水ハウス 山口工場
- ・子ども：88人(2016年度から59人増加)

● 備考

- ・広報：二島地域交流センター、秋穂地域交流センター、仁保地域交流センター、道の駅仁保の郷等にチラシ設置。長浜自治会でチラシ回覧。
- ・活動の様子は、2017年4月30日の山口新聞に掲載された。
- ・AQUA SOCIAL FES!!は全国で開催されており、2017年は全108回のプログラムに12,445人が参加。



山口新聞 (2017.4.30)

3 干潟再生活動

● 実施内容

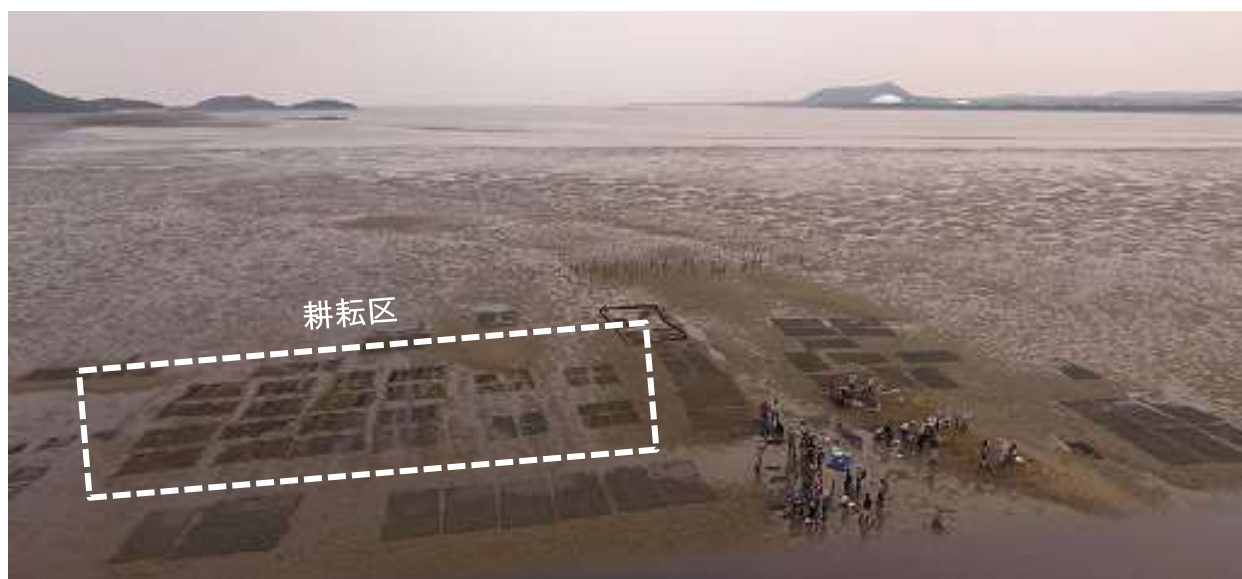
① 榎野川の幸を味わう試食会(参加者へのふるまい)

- ・アサリ汁(45kg) …山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
- ・山菜の天ぷら …榎野川流域連携促進協議会
- ・柑味鮎の天ぷら …榎野川漁業協同組合、榎野川流域連携促進協議会
- ・子ども用の飲み物 …(株)伊藤園山口支店



② 干潟耕耘作業

- ・2005年から13年目、18回目の耕耘作業(2005～2008年、2014年は秋季にも実施)。
- ・20m×30m(600㎡)の区画を約70人で耕耘した(うね平行)。
- ・被覆網を耕耘区内に33枚(29-1)、非耕耘区(29-2)に12枚設置した。



2017.4.29



2017.5.12



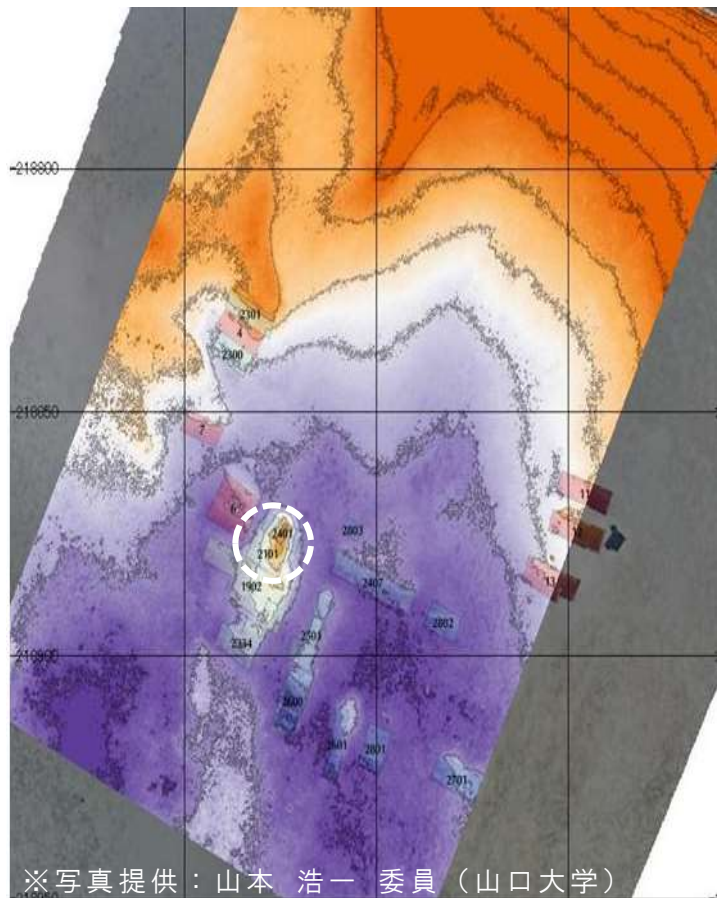
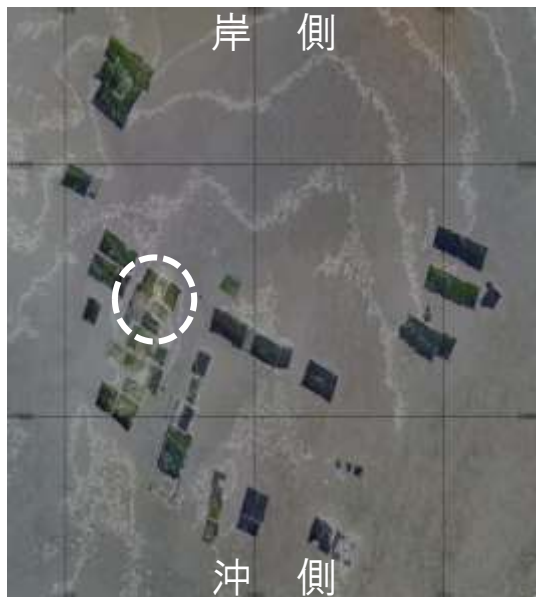
3 干潟再生活動

③ 地盤調整・アサリレスキュー

- ・西側に設置した被覆網の周辺に砂が堆積し、地盤が高くなっている。
- ・長期間被覆網を設置していることが原因の一つと考えられるため、「21-1の4枚」と「24-1の3枚」の計7枚の被覆網を撤去した。
- ・撤去した被覆網下の3cm以上のアサリ(約40kg)は間引き、3cm未満は耕耘区にまいた後、新たな網を45枚設置した。
- ・参加者が活動の成果を実感できる内容だった。



《 南潟の上空写真 》



2017.4.12



2018.1.30



3 干潟再生活動

④ 被覆網メンテナンス

- ・海藻の付着等がみられた被覆網約50枚を交換した(作業人数は約65人)。
- ・海藻の付着した網は、干潟に固定し、潮の流れできれいにする。



⑤ 潮干狩り体験・生き物観察会

- ・子どもを対象に潮干狩り体験と生き物観察会を交替で実施した。
- ・潮干狩りは、被覆網26-1と27-1で実施し、アサリ約18kgを配布した。
- ・観察会講師：後藤 益滋 委員(山口大学)、水産大学の学生



(2) アサリ再生活動

① 被覆網の設置

- ・2017年度中に約90枚の被覆網(500㎡)を増設し、2018年3月末時点の枚数は160枚。
- ・管理の容易な2m×2mの網を試験設置した。また、県環境保健センターが四方に鉄筋棒を取り付けた網、市販の安価な網(18mmメッシュ)の検証を行っている。



② 被覆網の手入れ

- ・2017年4月29日の活動で海藻の付着した網約50枚を交換した。以降は実施していない。

3 干潟再生活動

③ 母貝団地の増設

- ・ 東側、旧竹柵区内、沖側に計114㎡増設した。
- ・ 沖側の網は、市販の安価なネット(1m×10m、約1700円)で、長辺に2mの鉄筋棒を3本ずつ取り付けたもの。



④ 被覆網の費用対効果の検証

- ・ 各サイズの網について、アサリ収穫量を250個/㎡と仮定し、アサリ1個(3cm以上)当たりにかかる費用を算出した。

網の仕様	被覆網の価格						アサリ収穫		
	大きさ(m)	面積(㎡)	購入枚数	網の価格/枚	杭の本数	杭の価格	費用合計/枚	アサリ収穫/枚(個)	アサリ1個当たりにかかる費用
【従来】 φ9mm、PE製、 周囲φ6mmロープ	2×2	4	50	¥2,500	8	¥800	¥3,300	1,000	¥3.30
	2×2	4	100	¥2,400	8	¥800	¥3,200	1,000	¥3.20
	3×3	9	50	¥4,150	8	¥800	¥4,950	2,250	¥2.20
	3×5	15	50	¥5,200	10	¥1,000	¥6,200	3,750	¥1.65
	4×4	16	50	¥5,700	10	¥1,000	¥6,700	4,000	¥1.68
【市販】 φ18mm、PE製	2×2	4		¥2,700	8	¥800	¥3,500	検証中	検証中

《 南潟の上空写真 》



※写真提供：山口市環境政策課(2018年3月16日撮影)

3 干潟再生活動

⑤ 二枚貝モニタリング調査

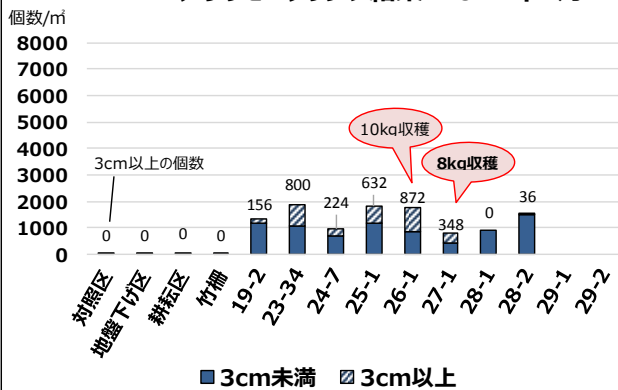
- ・4月、8月、12月、2月に、南潟に生息する二枚貝(アサリ、ニッコウガイ科、ソトオリガイ科、ホトトギスガイ)を調査した。
- ・14地点において、50cm四方のコードラート法で、5mmメッシュのフルイを用いた。

アサリモニタリング調査結果

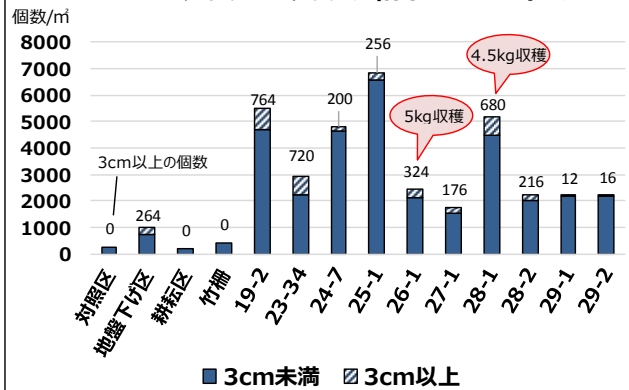
(個体数/m²)

地点名	設置年度	備考	4月		8月		12月		2月	
			全数	3cm以上	全数	3cm以上	全数	3cm以上	全数	3cm以上
対照区		被覆網なし	24	0	268	0	0	0	8	0
地盤下げ区	2014(H26)		4	0	1000	264	288	60	12	0
耕耘区		被覆網なし	80	0	200	0	36	0	4	0
竹柵		被覆網なし	24	0	404	0	0	0	4	0
19-2-①	2007(H19)		1336	156	5472	764	1888	568	2536	1184
23-34-①	2011(H23)		1888	800	2940	720	2932	880	3336	1040
24-7-①	2012(H24)		944	224	4816	200	3804	280	2752	284
25-1-⑤	2013(H25)		1828	632	6844	256	3780	228	3428	548
26-1-④	2014(H26)		1760	872	2448	324	3004	556	2344	540
27-1-⑤	2015(H27)		796	348	1720	176	1816	380	2128	616
28-1-②	2016(H28)	表層試験(乾湿環境)	896	0	5172	680	3536	276	3640	536
28-2-①	2016(H28)	表層試験(湿潤環境)	1516	36	2240	216	1392	216	2756	616
29-1-⑩	2017(H29)	耕耘区	—	—	2168	12	1620	44	2680	32
29-2-②	2017(H29)	非耕耘区	—	—	2212	16	1944	16	1644	28

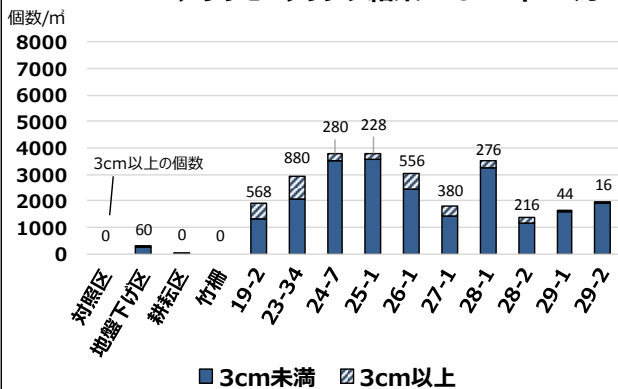
アサリモニタリング結果 2017年4月



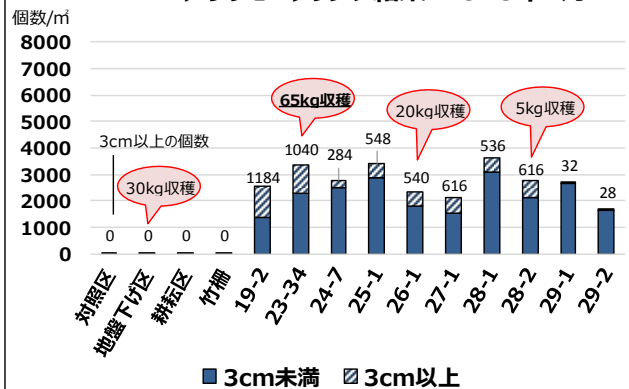
アサリモニタリング結果 2017年8月



アサリモニタリング結果 2017年12月



アサリモニタリング結果 2018年2月



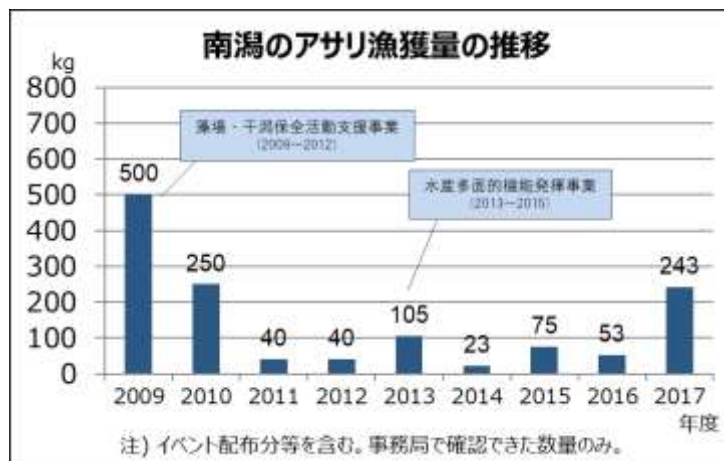
注) アサリ収穫量は、モニタリング地点(網)を含む同区画から採捕した量。下線はモニタリング地点(網)からも採捕

3 干潟再生活動

⑥ アサリ漁獲・間引き量

● 南潟

- ・2017年度のアサリ漁獲量は243kg(イベントのアサリ汁用などを含む)。
- ・採取箇所は南潟平面図のとおり。
- ・2017年3月18日(土)に、「道の駅きららあじす」の13周年記念祭において、県漁協吉佐支店山口支所が、約100kgを販売した。



(3) 関係情報

① 山口県のアサリ類漁獲量

- ・2017年度は、31t漁獲されている。



② 山口湾のアサリ採捕に係る規制措置

措置	根拠
・殻長2cm以下は採捕禁止(種苗としては可)	山口県漁業調整規則第37条
・11月～1月は採捕禁止	山口県漁協の資源管理措置(自主的)
・殻長3cm以下は採捕禁止	山口県瀬戸内海アサリ資源回復計画による漁獲努力量の削減措置(吉佐地区)
・9月1日～11月30日の間は漁獲禁止	

3 干潟再生活動

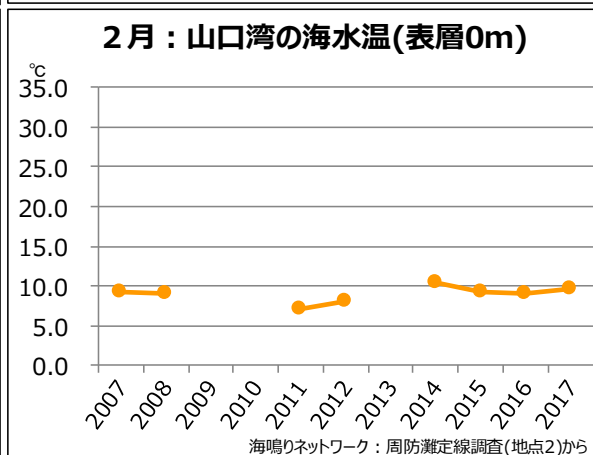
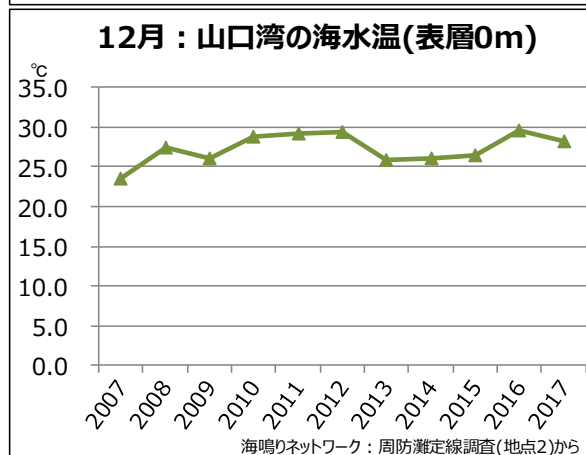
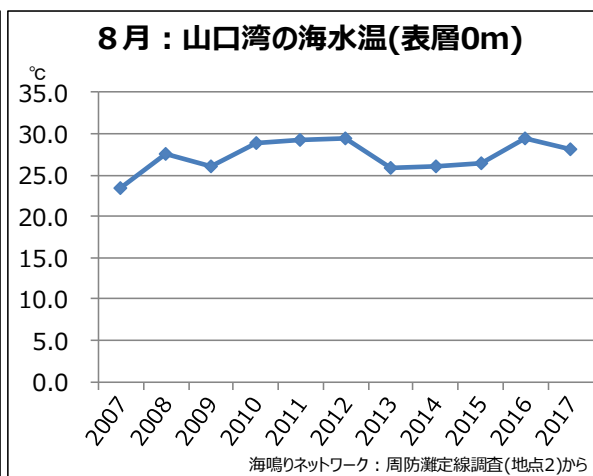
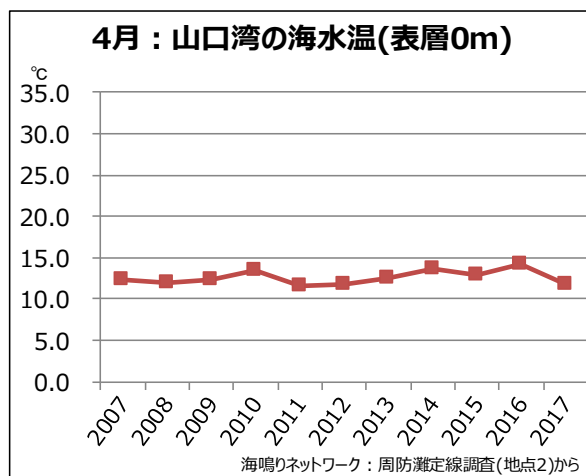
③ 南潟に生息するベントス種

- ・2010年4月～2013年1月に、県環境保健センターと国立研究開発法人国立環境研究所の共同研究で、南潟に生息する底生生物(ベントス)調査が行われた。
- ・詳細は、第18回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会の資料を参照(日時：2015年11月5日、場所：千葉県立中央博物館、発表者：県環境保健センター 惠本 専門研究員ら)の資料を参照。
- ・全212種類のベントスが確認されている。

種類	種類数	種類	種類数	種類	種類数
不等毛植物	不明1	線形動物	1門	外肛動物	1種
紅色植物	3属+不明1	星口動物	1科	腕足動物	1種
緑色植物	3属	環形動物	57種+6科	棘皮動物	1種
刺胞動物	1科+2種	節足動物	64種+2目+2属	脊索動物	2種
扁形動物	2種	軟体動物	46種+2属		
紐形動物	11種+不明1	筈虫動物	1種		

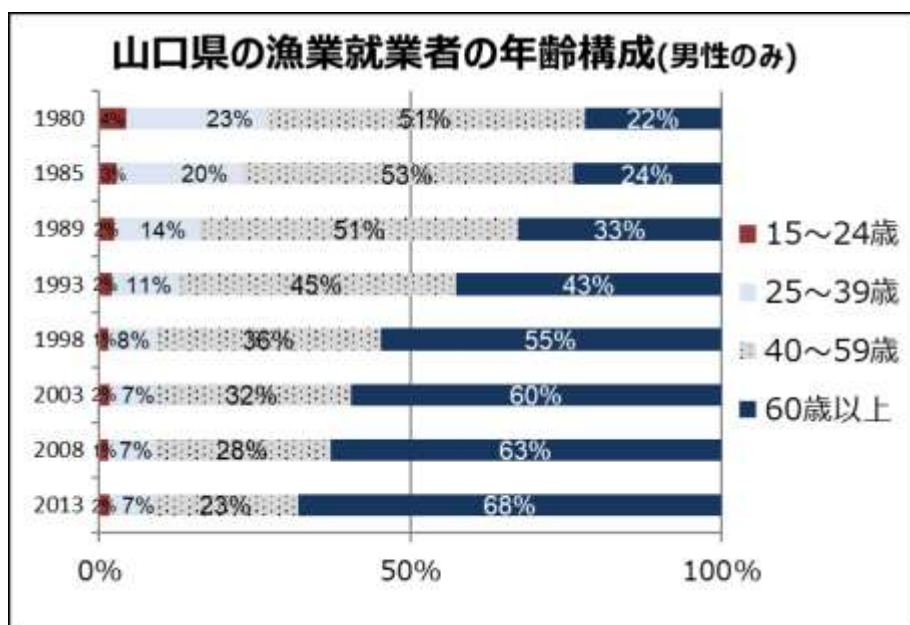
④ 山口湾の水温

- ・2007年～2017年の山口湾の水温(表層0m)。



3 干潟再生活動

⑤ 漁業就業者数



山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所
(旧山口きらら支所)

3 干潟再生活動

⑥ 大野前潟の視察

● 視察概要

- ・ 視察日：2017年11月6日(月)
- ・ 視察者：干潟・水産資源再生WG
- ・ 場 所：浜毛保漁協、大野前潟(広島県廿日市市)

● 視察内容

- ・ 被覆網によるアサリ漁業が盛んに行なわれている大野前潟(浜毛保漁協)の視察を行った。
- ・ 平成19年から被覆網を用いたアサリ漁業を開始。
- ・ 8.8haの干潟で、放射線状に約700に区画され、各組合員が自らの区画の被覆網を管理し、覆砂等も行う。組合員数は158人(正組合員は50人)。
- ・ 近年の全体の漁獲量は60~90t/年。広島湾で最も生産量の多い地域。
- ・ 出荷するアサリのサイズは3.5~4cm。「大野アサリ」としてブランド化し、地域活性化にもつながっている。
- ・ 水産庁多面的機能発揮事業により、地元で育った稚貝のみを生産する手法を検討しており、稚貝をある程度の大きさまでタマネギネットで育てている(約10,000袋)。



大野前潟(広島県廿日市市)



⑦ 参考情報

- ・ 県水産研究センター内海研究部が、簡便なアサリ二段階選別機を試作。
- ・ 出典：県水産研究センター内海研究部ウェブサイト
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16403/index/>

簡便なアサリ二段選別機を試作しました

当センターでは、生物系特定産業技術研究支援センターの「革新的技術開発・緊急展開事業(うち地域戦略プロジェクト)H28~30」において、広大な陸上池(面積1.5ha)でのアサリ人工種苗生産技術の開発に取り組んでいます。この技術開発の一環として、陸上の池で生産したアサリ稚貝を効率よくサイズ選別するための手動タイプ二段選別機(本体重量：19kg、全長：150cm、幅：40cm)を試作しました。

この選別機は、みのる産業株式会社製の回転土ふるい機(SC-1、価格2.7万円)のドラムを2個連結し、アサリの稚貝選別に適したふるいに改造したものです。選別機の第一選別ドラムを10mm目の金網とし、第二選別ドラムを13mm間隔のスリット構造とすることで、概ね殻長16mm以下の稚貝、16~25mmサイズの稚貝、25mm以上のアサリに選別することができます。また、ウミユナなどの小さな夾雑物の多くを16mm以下の小貝とともに取り除きます。

本機はアーク溶接機やディスクグラインダーがあれば安価に製作できます。ドラムに装着した金網は容易に交換でき、スリットの間隔を変えることで成貝の選別などにも使えます。現在、動力タイプも作成中です。試作にご協力いただいた職員の皆様ありがとうございました。(文責：岸岡正伸)



4 環境学習

(1) あさり姫プロジェクト@榎野川河口干潟2017

● 開催概要

- ・開催日：2017年7月22日(土) 10:00~15:00 【晴れ、大潮、最干 13:48】
- ・主催：環境学習WG
- ・協力：竹林ボランティア山口、株式会社伊藤園山口支店、水産大学校
- ・場所：山口県立きらら浜自然観察公園、南潟

● 参加者

- ・50人 【9グループ29人(うち子ども14人)+スタッフ21人】

● 実施内容

- ・県環境保健センター等が実証試験を行っていた「竹を活用したアサリ育成手法：あさり姫の館」で、親子等を対象にしたイベントを開催した。
- ・竹は、“竹林ボランティア山口”の協力で、榎野川上流のモデル林から採取した。
- ・各自が工作した「あさり姫の館」に、南潟の底質から採取したアサリ稚貝(1cm弱)100~300個を泥と一緒に入れ、設置した(計43個)。

● その他

- ・イベントの様子は、KRY山口放送でテレビ放映された。
- ・2017年10月26日の「第20回自然系調査研究機関連絡会議(NORNAC20)」において、恵本委員(県環境保健センター)がプロジェクト等についてポスター発表を行った。
- ・第2回目(2018年度)は、6月16日(土)に開催予定。



- ・きらら浜自然観察公園において、榎野川上流の竹を各自で「あさり姫の館」に加工。



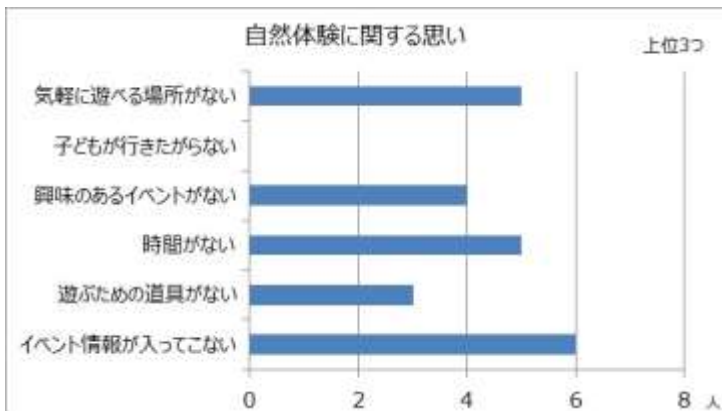
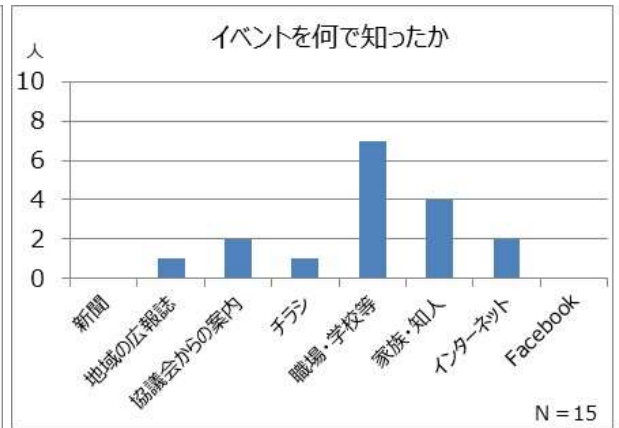
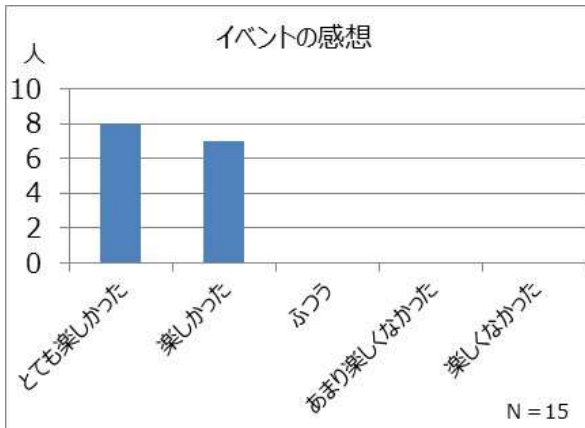
- ・南潟に移動。底質のあさりを館に入れ、干潟に設置。



4 環境学習

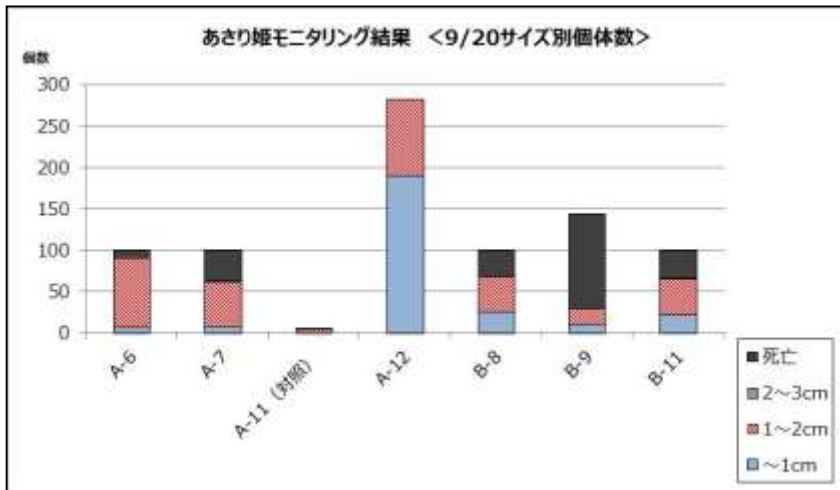
● 参加者に対するアンケート調査結果

- ・参加グループの代表者(保護者等)を対象にアンケート調査を実施した。



● 経過観察

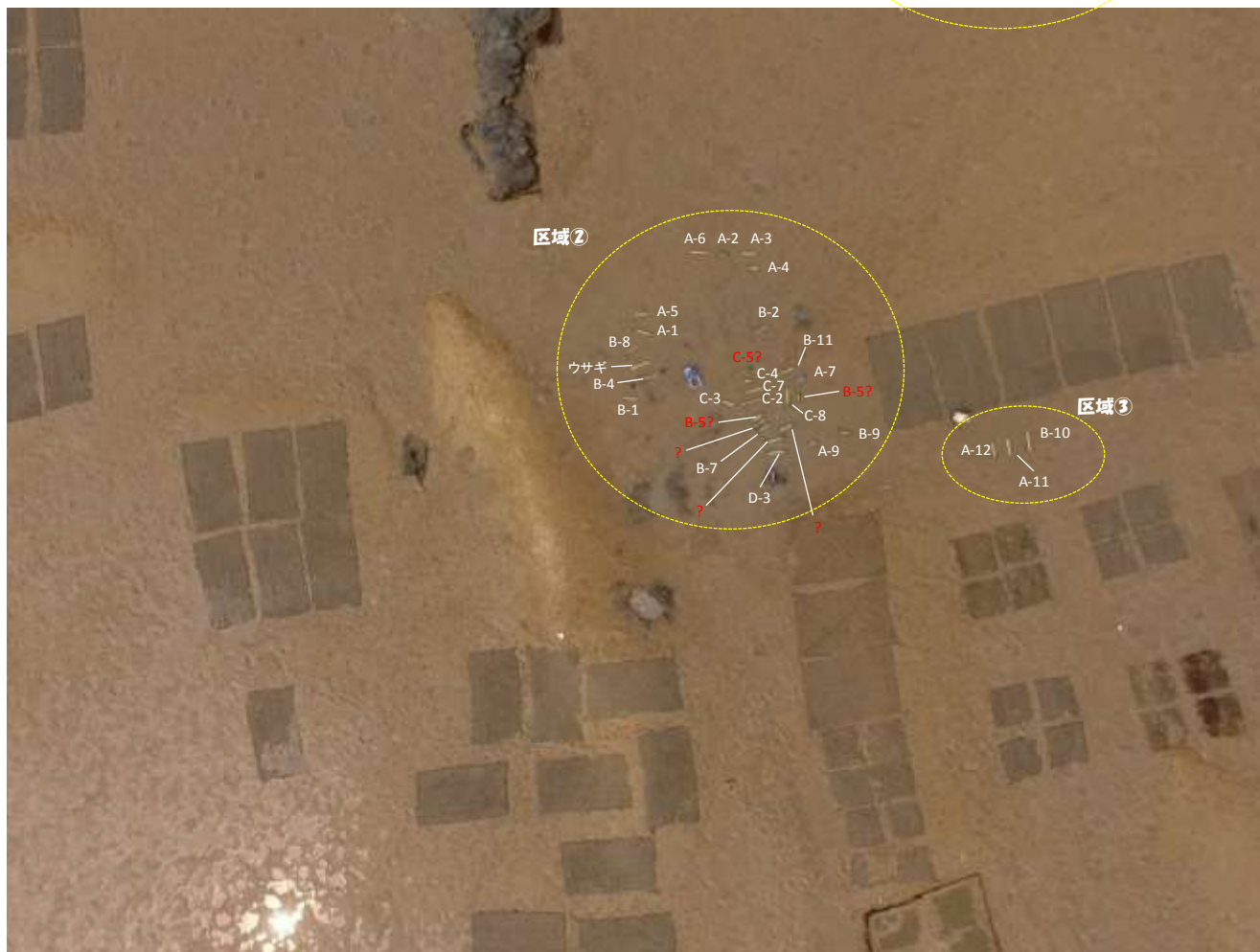
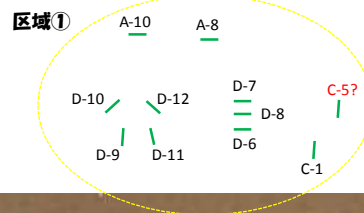
- ・設置から約2か月後に一部の館のアサリモニタリングを実施した。
- ・概ね順調に成長しており、生存率の平均は67%であった。
- ・館内の底質は嫌気化し、アサリ以外の貝類は確認されなかった。



- ・2018年1月時点、一部の館のネットが破られていた。
- ・きらら浜自然観察公園の干潟に試験設置した5本もネットが破られ、中にカニが侵入し、アサリは全滅していた。構造の改良が必要である。

4 環境学習

<あさり姫の館の設置場所（2017.9.20時点）>



4 環境学習

(2) 干潟の生き物観察会(南潟)

● 開催概要

- ・開催日：2017年4月29日(土) ※榎野川河口干潟再生活動2017において開催
- ・主催：榎野川流域連携促進協議会、山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所

● 参加者

子ども88人とその保護者

● 実施内容

- ・講師：後藤 益滋 委員(山口大学)、水産大学校の学生

(3) カブトガニ観察会(長浜)

● 開催概要

- ・開催日：2017年8月20日(日) 10:00~14:30 【晴れ、大潮、最干 13:40】
- ・主催：カブトガニWG
- ・協力：伊藤園山口支店(飲み物の提供)

● 参加者

54人 【19グループ(うち子ども28人)】

● 実施内容

- ・カブトガニ幼生生息調査と併せて、子どもを対象とした生き物観察会を実施した。
- ・講師：県環境保健センター職員

● その他

- ・TYSテレビ山口、YAB山口朝日放送、NHK山口放送局、山口新聞、宇部日報の取材を受けた。



(4) カブトガニ観察会(岩屋)

● 開催概要

- ・開催日：2017年8月6日(日)
- ・主催：山口カブトガニ研究懇話会

● 参加者

約40人



(5) 野鳥の教室

● 開催概要

- ・開催日：2017年12月3日(日) 10:00~12:00
- ・主催：山口市環境政策課
- ・場所：山口県立きらら浜自然観察公園

● 参加者

19人 【9グループ(うち子ども8人)】

● 実施内容

- ・野鳥の教室
- ・ヨシでヒンメリづくり



4 環境学習

(6) 山口県立きらら浜自然観察公園

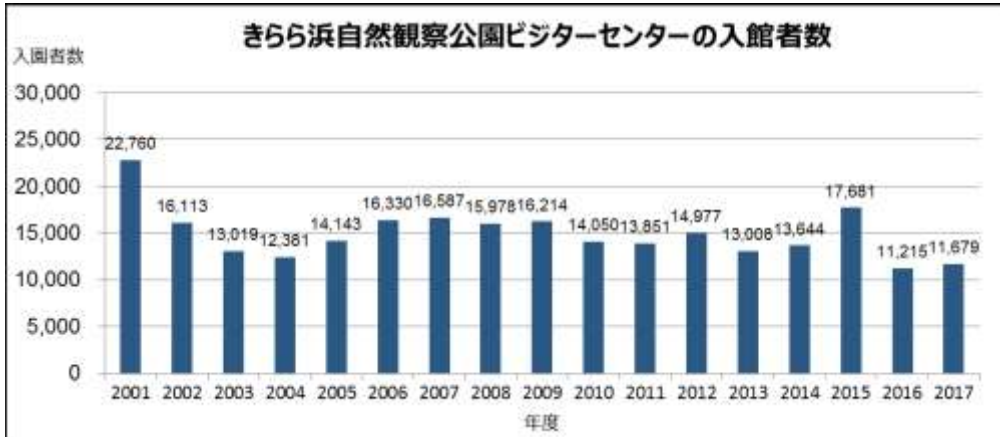
① 施設概要等

- 開園日：2001年4月27日
- 所在地：山口市阿知須509-53
- 運営者：NPO法人野鳥やまぐち
- 自然環境施設



淡水池 約3ha、ヨシ原 約6ha、干潟 約8ha、汽水池 約4ha、樹林帯 約2ha、淡水ビオトープ 約370㎡、トンボ池 約230㎡、汽水性植物池 約900㎡

② ビジターセンター入館者数



③ 実施行事等

- 通年行事
 - バードウォッチング、野鳥撮影入門、工作教室、昆虫観察会、自然観察指導、子どもレンジャークラブ、紙芝居、ビデオ上映、野鳥調査、底生生物調査等
- ヨシ焼き(8回目)
 - ・実施日：2017年3月3日(日) 10:00~12:00
 - ・実施内容：東エリア約2.5haのヨシ原を焼き払った。

④ 新たな取組

- ・2018年度から、サントリー世界愛鳥基金の助成を受け、山口湾のクロツラヘラサギ(絶滅危惧ⅠB類)の保全等に向けた取組を開始する。
- ・園内の干潟にクロツラヘラサギ用のケージ等を設け、県内外から受け入れた傷病鳥のリハビリを行う。

きらら浜自然観察公園マップ



5 学術研究・調査

(1) 学術研究・調査の概要

2017年度に干潟等において実施されている学術研究・調査の概要は、下表のとおり。

場所	内容	実施主体
南潟	二枚貝モニタリング	山口県環境保健センター、干潟・水産資源再生WG
南潟、長浜	土砂環境モニタリングの取組、ドローンの活用による地盤高調査等	山口大学 大学院創成科学研究科 白水助教、山本准教授
南潟	環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築	山口大学 大学院創成科学研究科 後藤専門研究員
南潟	貝類間の捕食-被食関係に関する生態学的研究-	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 須田教授、南條助教、安田氏
中潟、南潟	山口湾の干潟域におけるクロダイ <i>Acanthopagrus schlegelii</i> の出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 重田主任研究員
南潟	山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員
南潟	被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	惠本委員(山口県環境保健センター)、干潟・水産資源再生WG
長浜、南潟	カブトガニ幼生生息調査(長浜・南潟)	カブトガニWG
土路石川 河口等	カブトガニ幼生生息調査	山口カブトガニ研究懇話会
山口湾	カブトガニ産卵調査	山口カブトガニ研究懇話会
山口湾	野鳥モニタリング	NPO法人野鳥やまぐち
	活動参加者等へのアンケート調査	持続可能な里海づくりWG

5 学術研究・調査

(2) カブトガニ幼生生息調査

① 調査概要

➤ 長浜

● 開催概要

- ・開催日：2017年8月20日(日) 11:40~13:50 【晴れ、大潮、最干 13:40】
- ・主催：カブトガニWG
- ・協力：山口県職員退職者の会(ふれあいの会) 駐車場の整備

● 参加者

- ・43人(一般参加あり)

● 調査概要

- ・ベルトトランセクト法により、距離1,020m、16m間隔で20ライン、1ラインの調査幅2mで実施した(31.2ha)。
- ・個体の数、前体幅、発見地点(GPS)を記録した。



前体幅の測り方

➤ 南潟

● 開催概要

- ・開催日：2017年9月8日(金) 13:30~16:30 【晴れ、中潮、最干 16:00】
- ・主催：カブトガニWG

● 参加者

- ・8人(協議会委員、山口大学)

● 調査概要

- ・ベルトトランセクト法により、距離1,000m、60m間隔で5ライン、1ラインの調査幅2mで実施した(24.2ha)。
- ・個体の数、前体幅、発見地点(GPS)を記録した。



5 学術研究・調査

② 調査結果

● 発見個体数・推定個体密度

- ・ 個体数は2016年度に続き減少。ただし、長浜の調査は、1人のラインが6ラインあったこと等が影響している可能性がある。

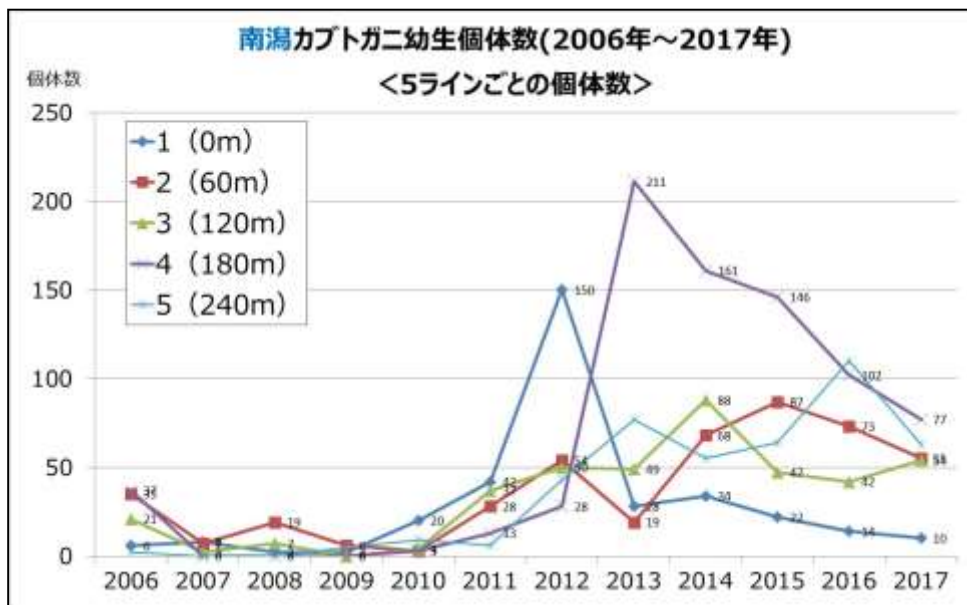


● ラインごとの発見個体数

- ・ 長浜：西側（南潟側）のライン11～20の個体数が大きく減少傾向。
- ・ 南潟：沖側のライン4が2013年から大きく減少傾向。ライン1は防波堤沿いで、砂が堆積している。

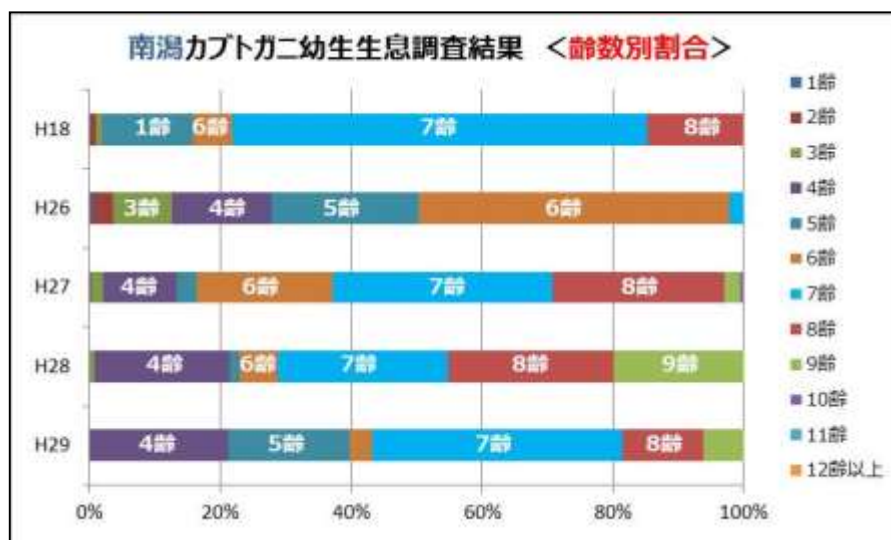
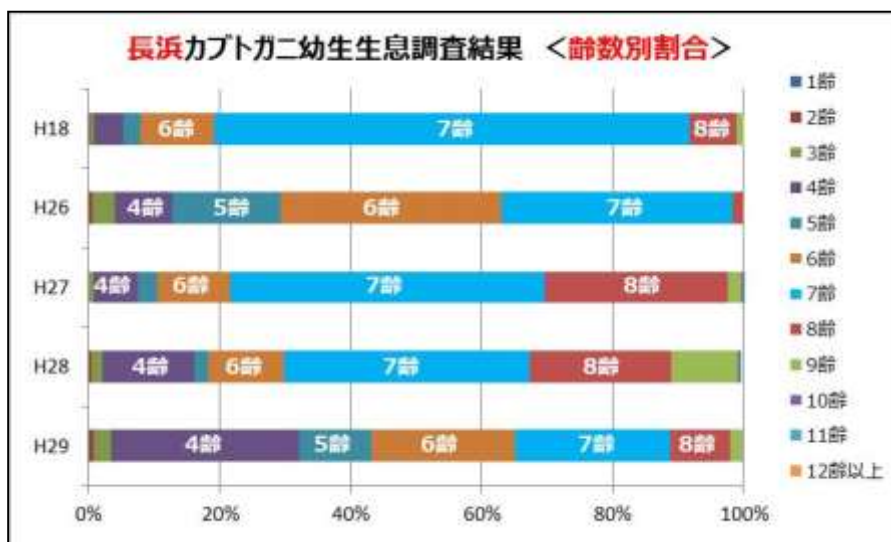


ライン1(0m)



● 齢数別割合

・若齢の割合が増加傾向（齢数が多様化）にある。



5 学術研究・調査

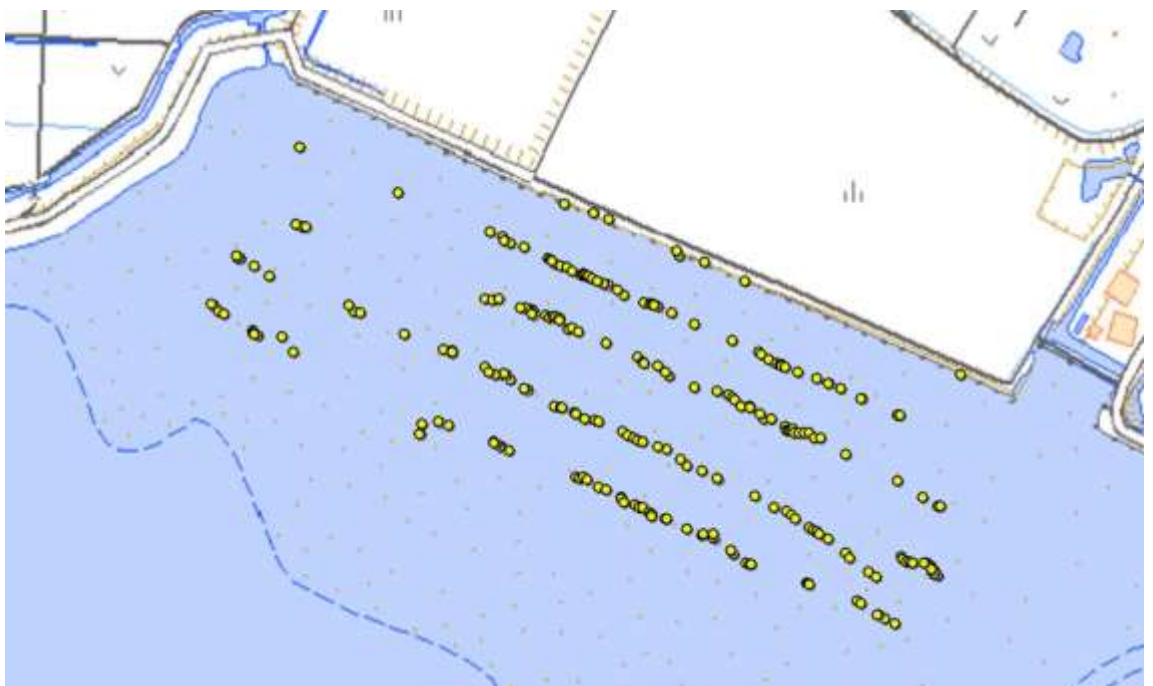
● 発見地点

➤ 長浜



山口大学大学院創成科学研究科 白水助教
から提供

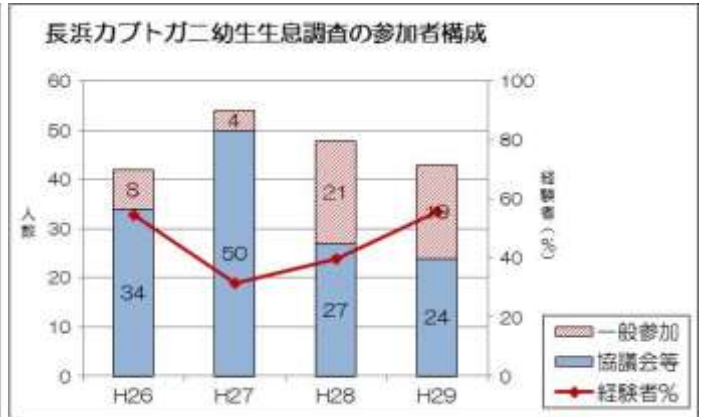
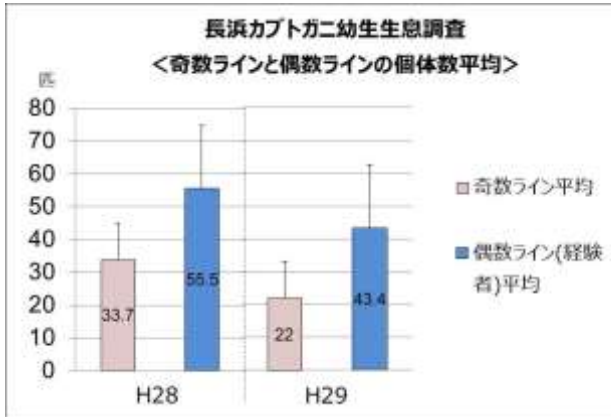
➤ 南潟



5 学術研究・調査

③ 生息調査ボランティア

- ・調査経験の有無が結果に与える影響を確認するため、昨年度から偶数ラインに経験者を配置した。また、昨年度も参加している調査者は、なるべく同じラインに配置した。
 - ・偶数ライン(経験者)と奇数ラインの個体数平均に20以上の差があり、調査経験の有無は結果に影響を与えることが示唆された。
- ⇒ 経験者の割合は増加傾向。今後も継続して参加してもらうことが重要である。



④ その他

- ・2018年度の長浜の生息調査は、8月26日(日)に実施予定。

(3) カブトガニ産卵調査

① 調査結果

- ・2016年度から山口カブトガニ研究懇話会の会員1人が調査している。

年	つがい数	調査回数	調査時期
2016	411	25	7/7~8/17
2017	1,122	36	5/26~8/11

※ 酒井 大樹氏(山口カブトガニ研究懇話会)から提供



② 調査ボランティアの募集

- ・人手が不足しており、十分な調査が行なえていない。
- ・2018年度から「ふしの干潟ファンクラブ」でボランティアを募る。

＜調査範囲＞



＜募集チラシ＞



5 学術研究・調査

《山口湾のカブトガニ産卵調査の詳細》

2016年産卵調査集計（山口湾・周防大橋東岸）

酒井 大樹氏(山口カブトガニ研究懇話会)から提供

月日	満潮時刻	潮・潮位cm	つがい数
7月7日	23:19	中潮 383	27
7月9日	11:51	中潮 329	6
7月10日	0:31	小潮 353	103
7月10日	12:36	小潮 312	7
7月16日	19:16	中潮 328	0
7月17日	6:46	大潮 313	0
7月17日	19:57	大潮 347	0
7月18日	20:35	大潮 364	0
7月19日	21:11	大潮 378	4
7月20日	21:47	大潮 388	9
7月21日	22:22	中潮 394	29
7月22日	22:58	中潮 395	52
7月23日	23:35	中潮 391	64
7月24日	11:34	中潮 362	21
7月25日	0:13	小潮 381	59
7月31日	19:40	中潮 369	4
8月1日	20:26	大潮 384	2
8月2日	21:06	大潮 393	5
8月3日	21:43	大潮 395	8
8月4日	22:17	大潮 392	4
8月5日	22:50	中潮 385	2
8月6日	10:48	中潮 357	4
8月7日	11:26	中潮 345	1
8月16日	20:12	大潮 365	0
8月17日	20:48	大潮 383	0
合計			411

※満潮時刻・潮位は字部の値を参照

2017年産卵調査集計（山口湾）

酒井 大樹氏(山口カブトガニ研究懇話会)から提供

月日	満潮時刻	潮・潮位(cm)	つがい数
5月26日	21:42	大潮 407	1
5月27日	9:31	大潮 370	1
5月28日	10:14	中潮 360	1
6月11日	22:32	大潮 364	1
6月22日	19:55	中潮 385	0
6月24日	8:31	大潮 370	1
6月25日	9:17	大潮 371	1
6月25日	22:19	大潮 411	13
6月26日	23:04	中潮 403	38
6月29日	0:32	中潮 370	61
7月8日	21:08	大潮 365	7
7月9日	21:42	大潮 372	12
7月10日	22:16	大潮 375	37
7月11日	22:49	中潮 376	89
7月12日	23:22	中潮 374	66
7月13日	23:56	中潮 369	130
7月15日	0:33	小潮 361	124
7月15日	12:37	小潮 327	3
7月16日	1:14	小潮 350	143
7月21日	19:47	中潮 383	10
7月22日	7:31	大潮 356	23
7月22日	20:37	大潮 400	30
7月23日	8:20	大潮 368	39
7月23日	21:22	大潮 410	39
7月24日	22:05	大潮 412	41
7月25日	22:45	中潮 406	38
7月26日	23:24	中潮 393	45
7月28日	0:00	中潮 377	63
7月29日	0:37	小潮 357	33
7月29日	12:54	小潮 321	3
8月5日	20:15	大潮 353	0
8月8日	21:53	大潮 384	4
8月9日	22:24	中潮 387	5
8月10日	22:56	中潮 387	7
8月11日	10:52	中潮 365	7
8月11日	23:27	中潮 382	6
合計			1122

※満潮時刻・潮位は字部の値を参照



5 学術研究・調査

(4) 野鳥モニタリング調査

- 実施者
NPO法人野鳥やまぐち
- 干潟等の代表種の調査結果

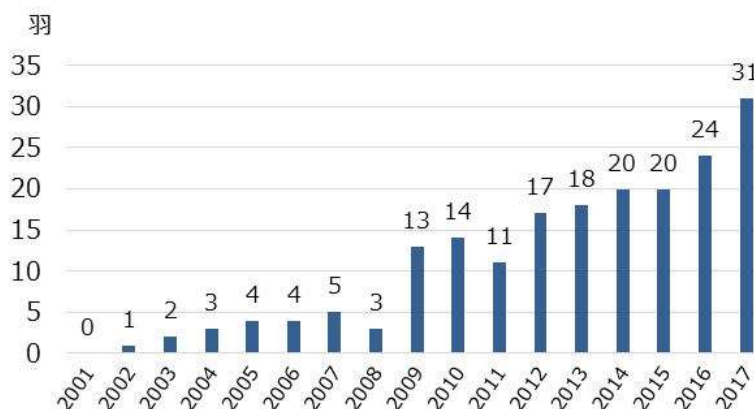
《クロツラヘラサギ》



- 分類：ペリカン目トキ科
- 体長：約74～82cm
- 体重：約1,460～2,050g
- 生態等

- ・目の周りが黒く、しゃもじのような嘴(くちばし)が特徴。嘴を水中で左右に振りながら歩き、魚やカニ等を捕えて食べる。
- ・主に朝鮮半島西岸や中国遼東半島沿岸の離島で繁殖し、日本や台湾、中国南部、ベトナム等に渡って越冬する。
- ・絶滅危惧ⅠB類(環境省レッドリスト2017)。

クロツラヘラサギの最大飛来数(山口湾)



クロツラヘラサギ飛来数		
年度	最大数	確認日
2001	0	
2002	1	12月12日
2003	2	10月27日
2004	3	10月26日
2005	4	12月14日
2006	4	12月13日
2007	5	12月20日
2008	3	11月1日
2009	13	12月17日
2010	14	12月5日
2011	11	12月7日
2012	17	12月11日
2013	18	11月8日
2014	20	12月8日
2015	20	11月16日
2016	24	12月16日
2017	31	11月9日

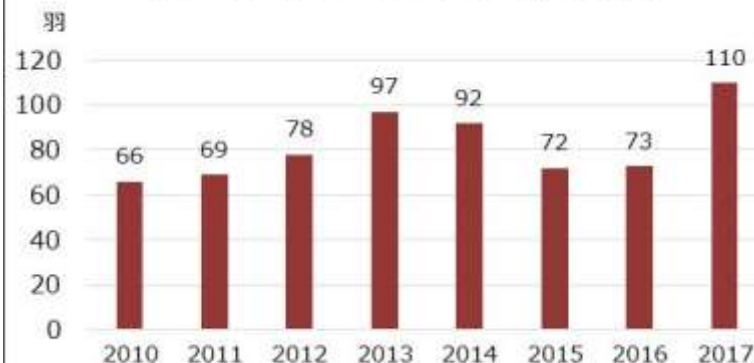
《ズグロカモメ》



- 分類：チドリ目カモメ科
- 体長：約29～32cm
- 体重：約200～215g
- 生態等

- ・夏羽は頭部が黒く、冬羽は白い。魚、カニ、ゴカイ等を食べる。
- ・中国や韓国の黄海沿岸にある湿地で繁殖し、中国南部や台湾、日本に渡って越冬する。
- ・絶滅危惧Ⅱ類(環境省レッドリスト2017)。

ズグロカモメの最大飛来数(山口湾)



ズグロカモメ飛来数		
年度	最大数	確認日
2010	66	2月24日
2011	69	12月20日
2012	78	12月11日
2013	97	1月19日
2014	92	2月14日
2015	72	12月19日
2016	73	1月17日
2017	110	2月3日

《チュウシャクシギ》



- 分類：チドリ目シギ科
- 体長：約42cm
- 体重：約276～518g
- 生態等
 - ・ダイシャクシギより小さく、嘴は10cm程度短い。
 - ・嘴を干潟に挿し、カニ等を食べる。
 - ・ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の北部で繁殖し、北半球の亜熱帯域から南半球の各大陸の南端まで南下して越冬する。日本には旅鳥として春と秋の渡りの時期に飛来する。



春期：4/1～5/31、秋期：8/1～9/30の各期間中3回実施した調査のうち、確認数が最大であった数を記載。

《ハマシギ》



- 分類：チドリ目シギ科
- 体長：約21cm
- 体重：約38～88g
- 生態等
 - ・夏羽は頭と翼が赤っぽく、腹部が黒くなる。
 - ・嘴が長く、干潟の中のゴカイ、藻、原生生物等を食べる。
 - ・準絶滅危惧（環境省レッドリスト2017）。
 - ・ユーラシア大陸や北アメリカ大陸の北極海沿岸部で繁殖し、北半球の中緯度地帯の沿岸で越冬する。日本には旅鳥または冬鳥として飛来する。日本で最も多く見られるシギ類の種のひとつ。



春期：4/1～5/31、秋期：8/1～9/30、冬期：12/1～2/28の各期間中3回実施した調査のうち、確認数が最大であった数を記載。

《ダイゼン》



- 分類：チドリ目チドリ科
- 体長：約29cm
- 生態等
 - ・夏羽は額から上面にかけて白い羽毛で覆われ、黒い斑紋が入り、顔から下面にかけては黒い羽毛で覆われる。冬羽は上面が灰褐色の羽毛で覆われ、白い斑紋が入る。
 - ・カニ、ゴカイ等を食べる。
 - ・ロシアや北アメリカ大陸の北極海沿岸部で繁殖し、北半球の中緯度地帯から南半球の各大陸の南端まで南下して越冬する。日本には旅鳥として春と秋の渡りの時期に飛来する。



春期：4/1～5/31、秋期：8/1～9/30、冬期：12/1～2/28の各期間中3回実施した調査のうち、確認数が最大であった数を記載。

<調査範囲>



5 学術研究・調査

● 山口県立きらら浜自然観察公園で確認された鳥類

・2001年4月から2018年1月までに確認された鳥類の累計種数は18目52科236種(NPO法人野鳥やまぐちの調査)。

目名	科名	種名	環境省RL (2017年3月)	目名	科名	種名	環境省RL (2017年3月)
キジ目	キジ科	ウズラ キジ	絶滅危惧Ⅱ類	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス ツツドリ カッコウ	
カモ目	カモ科	ヒシクイ(※)	絶滅危惧Ⅱ類	ヨタカ目	ヨタカ科	ヨタカ	準絶滅危惧種
		マガン	準絶滅危惧種	アマツバメ目	アマツバメ科	アマツバメ ヒメアマツバメ	
		カリガネ	絶滅危惧ⅠB類	チドリ目	チドリ科	タゲリ	
		コハクチョウ	絶滅危惧Ⅱ類			ケリ	情報不足
		ツクシガモ	絶滅危惧Ⅱ類			ムナグロ	
		アカツクシガモ				ダイゼン	
		オシドリ	情報不足			イカルチドリ	
		オカヨシガモ				コチドリ	
		ヨシガモ				シロチドリ	絶滅危惧Ⅱ類
		ヒドリガモ				メダイチドリ	
		アメリカヒドリ				オオメダイチドリ	
		マガモ				セイタカシギ	絶滅危惧Ⅱ類
		カルガモ				ヤマシギ	準絶滅危惧種
		ハシビロガモ				オオジシギ	
		オナガガモ				タシギ	
		シマアジ				オオハシシギ	
		トモエガモ	絶滅危惧Ⅱ類			オグロシギ	
		コガモ				オオソリハシシギ	絶滅危惧Ⅱ類
		アカハシハジロ				チュウシャクシギ	
		オオホシハジロ				ダイシャクシギ	
ホシハジロ		ホウロクシギ	絶滅危惧Ⅱ類				
アカハジロ	情報不足	ツルシギ	絶滅危惧Ⅱ類				
メジロガモ		アカアシシギ	絶滅危惧Ⅱ類				
キンクロハジロ		コアアシシギ					
スズガモ		アオアシシギ					
ビロードキンクロ		カラフトアオアシシギ	絶滅危惧ⅠA類				
コオリガモ		クサシギ					
ホオヅロガモ		タカブシギ	絶滅危惧Ⅱ類				
ミコアイサ		キアシシギ					
カワアイサ		ソリハシシギ					
ウミアイサ		イソシギ					
カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ		キョウジョシギ			
		カンムリカイツブリ		オバシギ			
		ハジロカイツブリ		コオバシギ			
ハト目	ハト科	キジバト		ミュビシギ			
		アオバト		トウネン			
カツオドリ目	グンカンドリ科 ウ科	コグンカンドリ カワウ		オジロトウネン			
ペリカン目	サギ科	サンカノゴイ	絶滅危惧ⅠB類	ヒバリシギ			
		ヨシゴイ	準絶滅危惧種	ウズラシギ			
		ゴイサギ		サルハマシギ			
		ササゴイ		ハマシギ	準絶滅危惧種		
		アカガシラサギ		キリアイ			
		アマサギ		エリマキシギ			
		アオサギ		レンカク			
		ムラサキシギ		ツバメチドリ	絶滅危惧Ⅱ類		
		ダイサギ		ユリカモメ			
		チュウサギ	準絶滅危惧種	ズグロカモメ	絶滅危惧Ⅱ類		
		コサギ		ウミネコ			
		クロサギ		カモメ			
		カラシラサギ	準絶滅危惧種	セグロカモメ			
		ヘラサギ	情報不足	オオセグロカモメ			
クロツラヘラサギ	絶滅危惧ⅠB類	コアジサシ	絶滅危惧Ⅱ類				
ツル目	ツル科	マナヅル	絶滅危惧Ⅱ類	アジサシ			
		ナベヅル	絶滅危惧Ⅱ類	クロハラアジサシ			
	クイナ科	クイナ		ハジロクロハラアジサシ			
		ヒメクイナ					
		ヒクイナ	準絶滅危惧種				
		パン					
		オオパン					

※環境省カテゴリーでは、亜種ヒシクイが絶滅危惧Ⅱ類、亜種オオヒシクイが準絶滅危惧種に分けられている

5 学術研究・調査

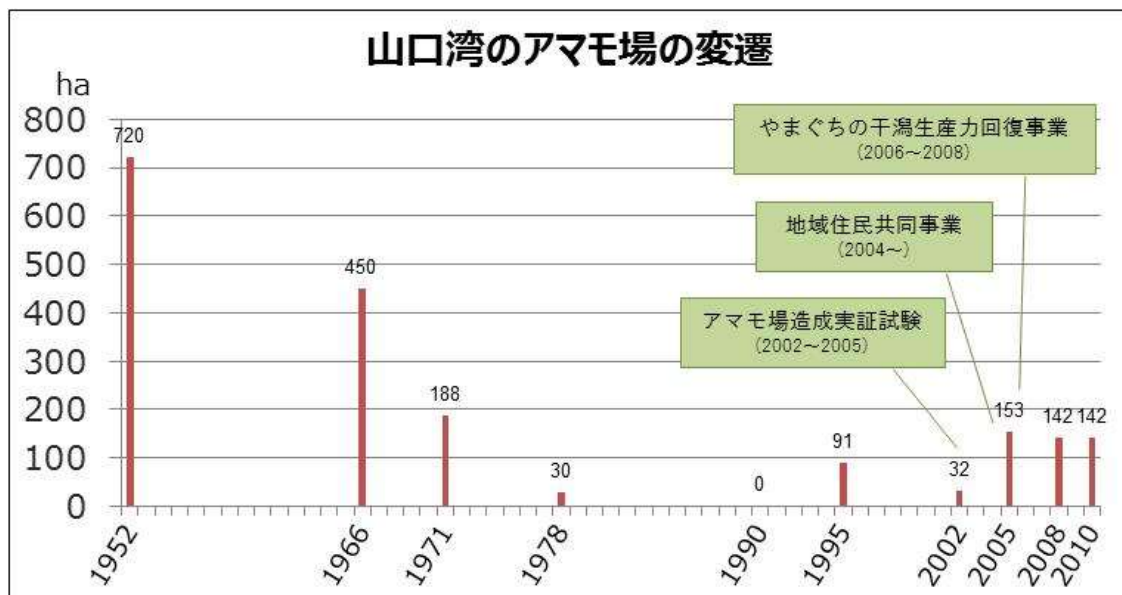
目名	科名	種名	環境省RL (2017年3月)	目名	科名	種名	環境省RL (2017年3月)			
タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	準絶滅危惧種	スズメ目	ミソサザイ科	ミソサザイ				
		タカ科				ハチクマ		ムクドリ科	ギンムクドリ	
		トビ	絶滅危惧Ⅱ類					ムクドリ		
		オジロワシ			絶滅危惧ⅠB類				コムクドリ	
		チュウヒ							カラムクドリ	
		ハイイロチュウヒ			ヒタキ科			ホシムクドリ		
		ツミ							トラツグミ	
		ハイタカ	準絶滅危惧種					クロツグミ		
		オオタカ	準絶滅危惧種					マミチャジナイ		
		サシバ	絶滅危惧Ⅱ類					シロハラ		
	ノスリ				アカハラ					
	オオノスリ				ツグミ					
	ケアシノスリ				ノゴマ					
フクロウ目	フクロウ科	トラフズク			コルリ					
		コミミズク			ルリビタキ					
サイチョウ目	ヤツガシラ科	ヤツガシラ			ジョウビタキ					
ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ			ノビタキ					
		ヤマセミ			イソヒヨドリ					
キツツキ目	キツツキ科	アリスイ			エゾビタキ					
		コゲラ			サメビタキ					
		アオゲラ			コサメビタキ					
ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	絶滅危惧Ⅱ類			キビタキ				
		アカアシチョウゲンボウ				オオルリ				
		コチョウゲンボウ				スズメ科	ニウナイスズメ			
		チゴハヤブサ					スズメ			
		ハヤブサ				セキレイ科	ツメナガセキレイ			
スズメ目	カササギヒタキ科	サンコウチョウ	絶滅危惧ⅠB類			キセキレイ	準絶滅危惧種			
		モズ科		アカモズ		ハクセキレイ				
				オオモズ		セグロセキレイ				
		オオカラモズ			ビンズイ					
	カラス科	カケス				アトリ科		タヒバリ		
		コクマルガラス						アトリ		
		ミヤマガラス						カワラヒワ		
		ハシボソガラス						マヒワ		
		ハシブトガラス						ベニヒワ		
	クイタダキ科	クイタダキ						ベニマシコ		
		ツリスガラ科		ツリスガラ				アカマシコ		
		シジュウカラ科		ヤマガラ				シメ		
				ヒガラ				ホオジロ科	ホオジロ	
				シジュウカラ					ホオアカ	
	ヒバリ科	ヒバリ							コホオアカ	
		ツバメ科		ショウドウツバメ					キマユホオジロ	
				ツバメ					カシラダカ	
				コシアカツバメ					ミヤマホオジロ	
				イワツバメ					ノジコ	
	ヒヨドリ科	シロガシラ							アオジ	
		ヒヨドリ							シベリアジュリン	
	ウグイス科	ウグイス							コジュリン	
		ヤブサメ							オオジュリン	
	エナガ科	エナガ				ハト目		ハト科	カワラバト(外来種)	
		ムシクイ科		キマユムシクイ	情報不足	スズメ目		チメドリ科	ソウシチョウ(外来種)	
		オオムシクイ								
		メボソムシクイ								
		エゾムシクイ								
	センダイムシクイ									
メジロ科	メジロ									
	センニュウ科	シマセンニュウ								
		エゾセンニュウ								
ヨシキリ科	オオヨシキリ									
	コヨシキリ									
セッカ科	セッカ									
	レンジャク科	キレンジャク								
		ヒレンジャク								

環境省RL カテゴリー別種数	
絶滅	0
野生絶滅	0
絶滅危惧ⅠA類	1
絶滅危惧ⅠB類	5
絶滅危惧Ⅱ類	20
準絶滅危惧種	13
情報不足	5

5 学術研究・調査

(5) アマモ場

- 山口湾のアマモ場面積は、近年微増傾向にある。



国土地理院 (撮影日: 2013年2月~3月)
https://maps.gsi.go.jp/#14/34.012969/131.417770/&ls=seamlessphoto&disp=1&lcd=_ort&vs=c1j010u0t0z0r0f0&d=vI

(6) カイガラアマノリ

- 山口湾の自生状況は、山口県水産研究センター内海研究部が不定期に調査している。
- 参考：山口県山口湾に自生する カイガラアマノリ *Pyropia tenuipedalis* (Miura) Kikuchi et Miyataの生育環境 (阿部真比古ら, Journal of National Fisheries University, 65(1)19-29(2017))

1 上流域における活動

(1) 榎野川源流の碑

① 建立10周年記念行事

● 行事概要

- ・実施日：2017年5月13日(土)
- ・主 催：榎野川流域連携促進協議会
- ・協 力：日本ボーイスカウト 山口県連盟 山口第3団
- ・場 所：荒谷ダム(山口市宮野上)



● 行事内容

- ・2007年3月に榎野川流域づくりのシンボルとして榎野川源流の荒谷ダム側道に建立した「榎野川源流の碑」が建立10周年を迎え、設立当時のメンバーが集い、碑の中に埋めたタイムカプセルを開封する記念事業を実施した。

● その他

- ・2017年5月6日の山口新聞に源流の碑10周年の記事が掲載された。
- ・碑は老朽化が進んでいたため撤去された。



山口新聞(2017.5.6)

② “新” 榎野川源流の碑

2018年2月に同場所に新たな碑(石碑)が設置された。



(2) 四季の森の森林整備

- ・四季の森は、2000年に仁保地区の住民により構成された「榎野川の源流を守る会」(2016年に榎野川流域連携促進協議会と合併)が、榎野川の源流域(仁保川源流)の保全のため、募金活動により購入した土地。
- ・土地は山口市に寄付され、現在は、仁保自治会により定期的に森林整備がされている。



1 上流域における活動

(3) 里山の迎春交流会(森林体験イベント)

● 行事概要

- ・実施日：2018年3月11日(日)
- ・主 催：宇津木の里※、榎野川流域活性化交流会
- ・場 所：山口市下小鯖稔畑

● 行事内容

枝打ち体験、シイタケ菌打ち体験、ピザづくり体験等

【宇津木の里】

山口市下小鯖千坊地区の約7haの森林を活動拠点として、荒廃森林の整備、自然観察会や椎茸駒打ち体験等の里山体験活動などを実施する森林ボランティアグループ(2002年2月結成)。



(4) あゆの放流行事

● 行事概要

- ・実施日：2018年4月23日(日)
- ・主催等：宮野の川をきれいにする会、榎野川漁業協同組合
- ・場 所：山口市宮野地区

● 参加者

- ・約250人(山口市立宮野小学校の児童等)

● 行事内容

稚アユ約5,000匹を放流

2 中流域～河口域における活動

(1) 榎野川水系クリーンキャンペーン

● 開催概要

- ・開催日：2017年7月30日(日)
- ・主催：山口市、榎野川漁業協同組合等

● 参加者

- ・約700人



(2) 水辺の教室@ふしの川漁協まつり

● 開催概要

- ・開催日：2017年9月10日(日) ※川の増水により中止
- ・実施者：山口市環境政策課
- ・場所：平川河川公園

(3) あゆ産卵場造成

● 開催概要

- ・開催日：2017年10月21日(土) ※雨天により中止
- ・実施者：榎野川流域活性化交流会
- ・場所：山口市黒川地内

● 実施内容

産卵場造成、河川清掃

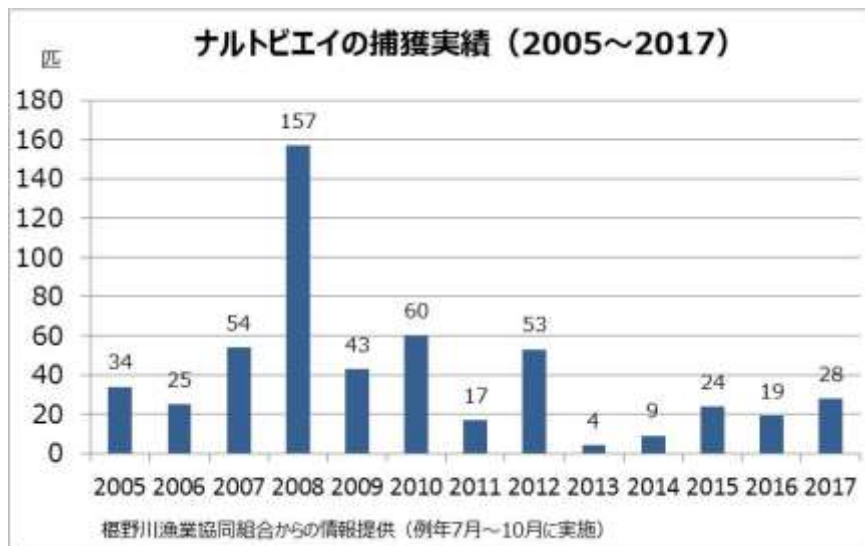
(4) ナルトビエイ駆除

● 実施概要

- ・時期：2017年7月～10月
- ・場所：百間橋
- ・実施者：榎野川干潟を守る会(榎野川漁業協同組合)

● 駆除実績

2017年度の駆除数は28匹だった。



1 広報活動等

(1) 学術研究・普及啓発に係る学術雑誌掲載・講演等

2017年度に、干潟等で実施された学術研究に係る学会発表や学術雑誌への掲載、活動等の普及に係る講演等の状況は下表のとおり。

日付	種別	場所・雑誌等	タイトル	発表者
2017.4.13	口演	山口県立大学	榎野川流域づくりの取組について	山口県自然保護課
2017.7.2	ポスター	日本分析化学会中国四国支部 第23回中国四国支部分析化学若手セミナー（秋吉台国際芸術村、美祢）	干潟底質及び直上水中のクロロフィルa測定について	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2017.7.13	口演	出前講義（広島市中央卸売市場、広島市）	瀬戸内海の魚類資源の現状と課題	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓
2017.7.25	口演	平成29年度瀬戸内海環境保全セミナー	もり・かわ・うみの現状と、いま考えなければならないこと	浮田 正夫
2017.9.9	口演	第51回水環境フォーラム山口	榎野川河口干潟の土砂環境モニタリングの取り組み	山口大学大学院 創成科学研究科学術研究員 白水 元
	口演		被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	山口県環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2017.10.1	刊行物	水産研究・教育機構 研究開発情報 瀬戸内通信26号 8-9ページ	干潟でアサリを食べる魚たち 一クロダイ成魚の出現の季節変化― <アサリ特集号No.1>	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓
2017.10.16-17	ポスター	第45回UJNR水産増養殖専門部会シンポジウム（広島国際会議場、広島市）	Asari clam predation by intertidal fishes: feeding habits of immature black porgy, <i>Acanthopagrus schlegelii</i> in Yamaguchi Bay, western Seto Inland Sea, Japan	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓・辻野 睦・他3名
2017.10.26	ポスター	第20回自然系調査研究機関連絡会議 調査研究・活動事例発表会（琵琶湖県立琵琶湖博物館、草津市）	干潟における竹を用いた二枚貝育成イベントの実施について	山口県環境保健センター 惠本佑・川上千尋、山口県自然保護課 山本倫也・藤本裕子、山口市環境政策課 山村秀明・福谷拓則
2017.11.11	口演	第17回全国河川愛護団体交流会 山口大会（錦パレス）	やまぐちの豊かな流域づくりの取組について	山口県自然保護課
2017.11.13	口頭	第44回環境保全・公害防止研究発表会（ホテルセントヒル長崎、長崎）	榎野川河口干潟における被覆網を用いたベントス保護手法の検討	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2017.11.15	口演	第22回前潟干潟研究会（大野町漁協、広島県廿日市市）	干潟におけるクロダイ未成魚の出現の季節変化と食性、および炭素・窒素源の推定（魚類の食性分析と安定同位体比分析による流域圏・干潟生態系構造の把握―）	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓・辻野 睦
2017.12.8	口頭	沿岸環境関連学会連絡協議会第34回ジョイントシンポジウム（けんみんホール、神戸市）	周防灘における里海づくり―山口湾榎野川河口干潟におけるアサリ復活の取組―	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2018.2.7	口演	平成29年度山口県環境衛生職員協議会研修会（山口県庁）	榎野川河口干潟等の里海の再生に向けた取組とのつながりについて	山口県自然保護課
	誌上		鉄筋網でアサリを守る	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2018.2.22	口演	第6回アサリ研究会（農林水産省、東京）	野外における魚類によるアサリ食害 一干潟生態系における魚類の餌資源としての重要性―	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓
2018.2.24	口演	第23回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議会（山口県セミナーパーク）	被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
	口演		温帯の干潟域における肉食性巻貝と二枚貝の分布	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 安田 風真
	口演		榎野川河口干潟の土砂環境モニタリングの取り組み	山口大学大学院 創成科学研究科学術研究員 白水 元
	口演		環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築	山口大学大学院 創成科学研究科学術研究員 後藤 益滋
	口演		山口湾の干潟域におけるクロダイ <i>Acanthopagrus schlegelii</i> の出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓・辻野 睦
	口演		山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 辻野 睦・重田 利拓
2018.3.4	口演	中津干潟アカデミア 第1回研究発表会（小橋コミュニティセンター）	山口湾のクロツラヘラサギの保全に向けて	NPO法人野鳥やまぐち（きらら浜自然観察公園）理事 原田 量介
2018.3.16	口演	大分県中津干潟と山口県榎野川河口干潟における肉食性巻貝と二枚貝の分布	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 安田 風真	
2018.3.16	ポスター	第52回日本水環境学会年会（北海道大学工学部）	里海づくりにおける効果的な被覆網設置方法の検討とアサリ密度の増加	環境保健センター 環境科学部専門研究員 惠本 佑
2018.3.30	刊行物	水産研究・教育機構 研究開発情報 瀬戸内通信27号 4-5ページ	干潟のアサリと線虫類の関係 <アサリ特集号No.2>	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 辻野 睦
2018.4.25	論文	魚類学雑誌65巻1号 113-114ページ	環境省版水産魚類レッドリストにおける水産対象種、シリーズ・Series 日本の希少魚類の現状と課題：海産魚類レッドリストとその課題	瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ 主任研究員 重田 利拓（木村 清志（編）：木村 清志・瀬能 宏・山口 敦子・鈴木 寿之・重田 利拓 分担執筆）

1 広報活動等

(2) ふしの干潟ファンクラブ

● 概要

- ・ ①活動の主体となる担い手の確保、②イベント参加者や活動ボランティア等の安定的な確保、③干潟等の取組等の情報発信の活性化を目的として、2018年2月24日付けで設立(規約施行)。
- ・ 会員に対し、協議会構成員等が実施する自然再生活動・環境保全活動・環境学習会、イベント調査研究結果等の情報を発信。

● 登録状況(2018年3月31日時点)

- ・ 12名(個人10名、団体2名)



(3) 広報用リーフレット

- ・ 山口県立大学看護栄養学科“食べちやる隊”との連携により、榎野川流域の特産品を活用したレシピ開発を実施。
- ・ レシピは、2018年度に作成予定のリーフレットに掲載し、活動とその成果(食材)のつながりを普及させるために活用する。



(4) ニュースレター

- ・ 2017年5月に、4月29日の干潟再生活動の内容を掲載した「号外」を発行した。
- ・ 2018年3月に、2017年度の活動内容を掲載した「No. 14」を発行した。

(5) 関連ウェブサイト等

- 山口県自然保護課(榎野川河口干潟・山口湾の「里海」の再生)
[http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/ryuiki/fushino/home.html](http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/ryuuki/fushino/home.html)
- 山口市(榎野川河口干潟の再生プロジェクト)
<http://www.city.yamaguchi.lg.jp/site/fushino/>
- やまぐちエコポータル(山口市環境政策課)
<http://kankyo-portal.jp/>(改定作業中)
- 山口県環境生活部自然保護課
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a15600/index/>
- 山口県水産情報システム 海鳴りネットワーク
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a16500/uminari/uminari-top.html>
- 山口県立きらら浜自然観察公園
<http://kirara-h.com/>
- 山口カブトガニ研究懇話会
<http://www5c.biglobe.ne.jp/~h-kabu/>
- 榎野川漁業協同組合(榎野川流域活性化交流会)
<http://www.fushinogawa.jp/>
- Facebook(榎野川河口域・干潟自然再生協議会)
<https://www.facebook.com/fushinogawasaiseikyougikai/>



1 会議

(1) 協議会会議

① 第22回協議会会議

- 開催日：2017年4月29日(土) 9:30～11:00
- 場 所：山口県漁業協同組合吉佐支店山口きらら支所 2階会議室(山口市秋穂二島437)
- 出席者：50人(委員28人、委員外22人)
- 次 第
 - ・2016年度活動報告
 - ・2017年度活動計画(案)

② 第23回協議会会議

- 開催日：2018年2月24日(土) 13:00～16:00
- 場 所：山口県セミナーパーク 202研修室
(山口市秋穂二島1062)
- 出席者：41人(委員24人、委員外17人)
- 次 第
 - ・2017年度活動概要
 - ・2018年度活動計画(案)
 - ・地域循環共生圏構築検討業務
 - ・講演等



演題	講演者
被覆網を用いたベントス保護手法に関する検討	山口県環境保健センター 環境科学部 惠本委員
貝類間の捕食 -被食関係に関する生態学的研究-	水産大学校 沿岸生態系保全研究室 安田氏
土砂環境モニタリングの取組	山口大学 大学院創成科学研究科 白水学術研究員
環境DNA解析技術を生かしたアサリモニタリングの構築	山口大学 大学院創成科学研究科 後藤委員
山口湾の干潟域におけるクロダイの出現の季節変化と食性および炭素・窒素源の推定	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 重田委員、辻野主任研究員
山口湾干潟に設置されたアサリ被覆網内外のベントス相	瀬戸内海区水産研究所 干潟生産グループ 辻野主任研究員、重田委員
山口湾のクロツラヘラサギの保全に向けて	NPO法人野鳥やまぐち 原田理事

(2) 自然再生協議会全国会議

- 開催日：2017年11月1日(水) ～ 11月2日(木)
- 場 所：伊豆沼・内沼(宮城県)
- 主催者：環境省自然環境局自然環境計画課
- 出席者：事務局2人(山口県自然保護課、山口市環境政策課)

2 構成員

第7期榎野川河口域・干潟自然再生協議会委員名簿

平成30年3月31日時点

区分	氏名	所属	備考
学識者	浮田 正 夫	山口大学 名誉教授	会長
	恵本 佑	山口県環境保健センター 環境科学部 専門研究員	
	岸岡 正 伸	山口県水産研究センター内海研究部 専門研究員	
	坂本 紘 二	NPO法人環境みらい下関 理事長	
	須田 有 輔	水産大学校 教授	
	関根 雅 彦	山口大学大学院創成科学研究科(工学) 教授	
	中西 弘	山口大学 名誉教授	顧問
	山元 憲 一	水産大学校 名誉教授	会長代理
計			8

【五十音順】

区分	氏名	住所	備考
個人	朝位 孝 二	宇部市	
	氏永 東 光	山口市	
	浦上 卓 三	周防大島町	
	岡村 知 法	山口市	
	梶田 博 志	山口市	
	久保田 啓 子	長門市	監査
	後藤 益 滋	山口市	
	重田 利 拓	広島県広島市	
	田村 一 男	山口市	
	二井 塚 夫	山口市	
	西嶋 裕 作	山口市	
	平田 明 子	山口市	
	藤井 暁 彦	福岡県宇美町	
	宮崎 武 二	山口市	
守田 良 則	防府市		
	山本 浩 一	宇部市	
計			16

【五十音順】

区分	団体名	代表者	備考
団体	秋穂二島地区連合自治会	会 長 野 島 義 正	
	特定非営利活動法人環境奇兵隊	理 事 長 前 田 哲 男	
	国立研究開発法人水産研究・教育機構水産大学校 沿岸生態系保全研究室	代 表 須 田 有 輔	
	榎野川漁業協同組合	代 表 理 事 組 合 長 横 部 政 明	
	榎野川流域活性化交流会	会 長 渡 邊 久 夫	
	榎野川流域連携促進協議会	会 長 西 嶋 裕 作	
	特定非営利活動法人水環境地域ネットワーク	代 表 岡 谷 政 宏	
	特定非営利活動法人野鳥やまぐち	團 長 原 田 量 介	
	山口カフトガニ研究懇話会	代 表 原 田 直 宏	
	山口県環境教育学会	会 長 伊 原 靖 二	
	山口県漁業協同組合嘉川支店	運 営 委 員 長 渡 邊 久 夫	
	山口県漁業協同組合吉佐支店山口支所(旧山口きらら支所)	運 営 委 員 上 田 篤	
	山口県職員退職者の会(ふれあいの会)	会 長 西 村 克 己	
	公益財団法人山口県ひとつり財団環境学習推進センター	所 長 平 田 晃 一	監査
	特定非営利活動法人やまぐち県民ネット21	理 事 船 崎 美 智 子	
	特定非営利活動法人やまぐち里山ネットワーク	所 長 赤 川 瑞 夫	
	やまぐち自然共生ネットワーク	会 長 白 井 啓 二	
山口中央森林組合	代 表 理 事 組 合 長 戸 田 岸 巖		
計			18

【五十音順】

区分	所属	代表者	備考
地方公共団体	山口県環境生活部 自然保護課	課 長 末 富 芳 伸	
	山口県農林水産部 農村整備課	課 長 鮎 川 和 文	
	山口県農林水産部 水産振興課	課 長 三 浦 忠	
	山口県土木建築部 河川課	課 長 石 田 明	
	山口県土木建築部 港湾課	課 長 片 山 克 浩	
	山口県山口健康福祉センター	所 長 西 田 秀 樹	
	山口県山口農林事務所	所 長 沖 原 一 則	
	山口県防府水産事務所	所 長 片 岡 謙 一 郎	
	山口県防府土木建築事務所	所 長 小 澤 雅 史	
	山口市環境部	部 長 藤 本 和 政	
	山口市経済産業部 水産港湾課	課 長 矢 田 部 育 雄	
関係行政機関	環境省中国四国地方環境事務所 国立公園課	自然再生企画官 杉 田 高 行	
	水産庁瀬戸内海漁業調整事務所	資 源 課 長 平 松 大 介	
	農林水産省中国四国農政局農村振興部地域整備課	課 長 西 原 正 彦	
計			14

合計			56
----	--	--	----

榎野川河口域・干潟自然再生協議会設置要綱

第1章 総則

(名称)

第1条 この自然再生協議会は、榎野川河口域・干潟自然再生協議会(以下「協議会」と称する。)という。

(対象区域)

第2条 協議会で検討する自然再生の対象区域は、榎野川河口域及び山口湾(以下「榎野川河口干潟等」と称する。)とする。

第2章 目的及び協議会所掌事務

(目的)

第3条 榎野川河口干潟等の自然再生を推進するため、必要となる事項の協議を行うことを目的とする。

(所掌事務)

第4条 協議会は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 自然再生全体構想の作成
- (2) 自然再生事業の実施計画書の協議
- (3) 自然再生事業の実施に係る連絡調整
- (4) その他必要な事項

第3章 委員

(委員)

第5条 協議会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 榎野川河口干潟等の自然再生活動を実施しようとする個人又は団体
- (2) 地域住民、特定非営利活動法人等、自然環境に関し専門的知識を有する者、その他(1)の者が実施しようとする自然再生活動に参加しようとする個人又は団体
- (3) 関係地方公共団体又は関係行政機関

2 委員の任期は、2年とし、4月1日から翌年度末までとする。

3 委員の再任は、妨げない。

4 第1項(1)～(3)までに掲げる委員は、募集によるものとする。(途中参加委員)

第6条 協議会の委員から推薦があり、第10条に規定する協議会の会議の出席委員の合意が得られた場合に、委員となることができる。

2 途中参加委員となるようとする者が、第13条に規定する運営事務局に、途中参加委員となる意思表示を行い、第10条に規定する協議会の会議の出席委員の合意が得られた場合に、委員となることができる。

3 途中参加委員の任期は、第5条に規定する委員の任期の残任期間とする。

(委員資格の喪失)

第7条 委員は、次の事由によって、その資格を喪失する。

- (1) 辞任
- (2) 死亡、失踪の宣言
- (3) 団体若しくは法人の解散
- (4) 解任

(辞任及び解任)

第8条 辞任しようとする者は、第13条に規定する運営事務局に書面をもって連絡しなければならない。

2 協議会の運営に著しい支障をきたす場合、協議会の合意により委員を解任することができる。

第4章 役員

(会長、会長代理、監査及び顧問)

第9条 協議会に会長1名、会長代理1名及び監査2名を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 会長代理は、会長を補佐し、必要に応じ会長の職務を代理する。

4 監査は、協議会会計の監査を行う。

5 協議会に顧問を置くことができる。

6 顧問は、協議会の委員から推薦があり、第10条に規定する協議会の会議の出席委員の了承を得て就任する。

第5章 会議および専門委員会

(協議会の会議)

第10条 協議会の会議は、会長が召集する。

2 協議会の会議の議長は、会長がこれにあたる。

3 会長は、協議会の会議の進行に際して専門的知見を有する者の意見を聴取することを必要と認める場合、協議会の会議に委員以外の者の出席を要請することができる。

4 協議会は必要に応じ、第11条に規定する専門委員会での検討状況報告を求めることができる。

(専門委員会)

第11条 協議会は、第15条に規定する運営細則の定めにより、専門委員会を置くことができる。

2 協議会委員は専門委員会に所属することができる

3 専門委員会の委員長は、専門委員会構成委員の互選により選出する。

4 専門委員会は委員長の招集により開催する。

5 専門委員会は次の事項を協議する。

- (1) 協議会から付託される専門的事項
- (2) その他必要な事項

6 委員長は、専門委員会の会議の進行に際して専門的知見を有する者の意見を聴取することを必要と認める場合、専門委員会の会議に委員以外の者の出席を要請することができる。

7 専門委員会は、協議概要を第10条に規定する協議会の会議に報告する。

(公開)

第12条 協議会の会議及び専門委員会は、希少種の保護上又は個人情報保護上支障のある場合を除き、原則公開とする。

2 協議会の会議及び専門委員会を開催する際には、日時、場所等について予め広く周知を図る。

3 協議会の会議及び専門委員会の資料は、ホームページ等で公開する。

4 協議会の会議及び専門委員会の議事結果は、要旨をとりまとめて議事要旨とし、ホームページ等で公開する。

第6章 運営事務局

(運営事務局)

第13条 協議会の会務を処理するために運営事務局を設ける。

2 運営事務局は山口県自然保護課、水産振興課、港湾課、河川課、山口市水産港湾課、環境政策課で構成し、共同で運営する。

(運営事務局の所掌事務)

第14条 運営事務局は、次に掲げる事務を行う。

(1) 第10条に規定する協議会の会議の議事に関する事項

(2) 12条に規定する協議会の会議の議事要旨の作成及び公開に関する事項

(3) 協議会の会計に関する事項

(4) その他協議会が付託する事項

第7章 補則

(運営細則)

第15条 この要綱に規定する他、協議会の運営に関して必要な事項は、第10条に規定する協議会の会議の同意を経て、会長が別に規定する。

(要綱改正)

第16条 この要綱は、第5条に規定する協議会の委員の発議により、協議会の会議に出席した委員の合意を得て、改正することができる。

附則

この要綱は、平成16年8月1日から施行する。

平成18年2月5日一部改正

この改正要綱は、平成18年4月1日から施行する。

平成19年4月1日一部改正

この改正要綱は、平成19年4月1日から施行する。

平成24年4月1日一部改正

この改正要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成26年4月1日一部改正

この改正要綱は、平成26年4月1日から施行する。

平成28年10月1日一部改正

この改正要綱は、平成28年10月1日から施行する。

平成30年2月24日一部改正

この改正要綱は、平成30年2月24日から施行する。

順応的取組促進専門委員会設置細則

(設置及び名称)

第1条 榎野川河口域・干潟自然再生協議会設置要綱（以下「協議会設置要綱」と称する）第11条第1項に定める専門委員会として、榎野川河口域・干潟自然再生協議会順応的取組促進専門委員会（以下「順応的取組促進専門委員会」と称する）を設置する。

2 順応的取組促進専門委員会の運営に関しては、協議会設置要綱に定めるもののほか、協議会設置要綱第15条に基づき、この細則に定めるところによる。

(目的)

第2条 順応的取組促進専門委員会は、次の事項を実施することを目的とする。

- (1) これまでの取組の検証
- (2) 検証に基づく新たな指標や目標の検討
- (3) 目標達成に向けた手法の検討
- (4) その他必要な事項

(組織)

第3条 順応的取組促進専門委員会は、委員15人以内で組織する。

2 順応的取組促進専門委員会の委員は、学識経験を有する者、関係研究機関の職員及び関係行政機関の職員のうちから、榎野川河口域・干潟自然再生協議会会長が任命する。

3 順応的取組促進専門委員会委員の任期は2年とする。

(委員長及び委員長代理)

第4条 順応的取組促進専門委員会に委員長及び委員長代理を置き、順応的取組促進専門委員会委員の互選によりこれを選出する。

(会議)

第5条 順応的取組促進専門委員会の会議（以下「会議」という。）は、必要に応じ委員長が招集する。

2 会議は、委員長が議長となる。

3 委員長は、必要があると認めるときは、順応的取組促進専門委員会委員以外の者を会議に出席させ、意見又は説明を求めることができる。

(事務局)

第6条 順応的取組促進専門委員会の事務局は、山口県自然保護課、水産振興課、港湾課、河川課、山口市水産港湾課、環境政策課で構成し、共同で運営する。

(その他)

この要領に定めるもののほか順応的取組促進専門委員会の運営に必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この細則は平成26年4月1日から施行する。

《 問い合わせ先 》

報告書の内容に関するご質問や、参加してみたい活動などがありましたら、協議会事務局にお問い合わせください。

榎野川河口域・干潟自然再生協議会(事務局：山口県環境生活部自然保護課)

〒753-8501 山口県山口市滝町1-1(県庁2階)

TEL：083-933-3060 FAX：083-933-3069

MAIL：a15600@pref.yamaguchi.lg.jp